

第II章 医療保障

1. ケガや病気に対する不安意識

ここでは、傷病に対する不安意識について、その程度や内容について捉えている。

(1) ケガや病気に対する不安の有無

まず、自分自身がケガや病気をする事についての不安の有無と程度を捉えるため、以下のように尋ねた。

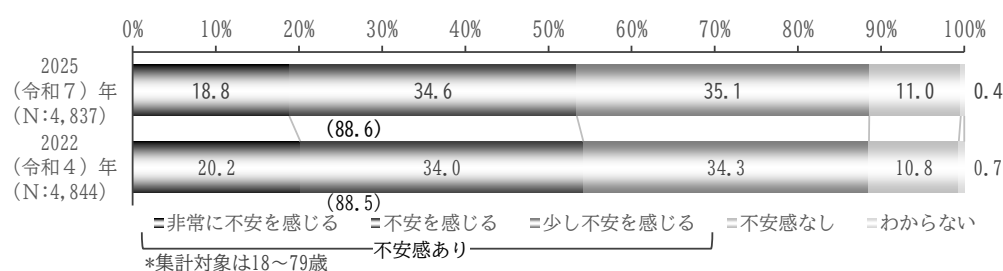
あなたは、ケガや病気により健康を害することについて、どの程度不安を感じていますか。

- (ア) 非常に不安を感じる
- (イ) 不安を感じる
- (ウ) 少し不安を感じる
- (エ) 不安を感じない ……………以下「不安感なし」
- わからない

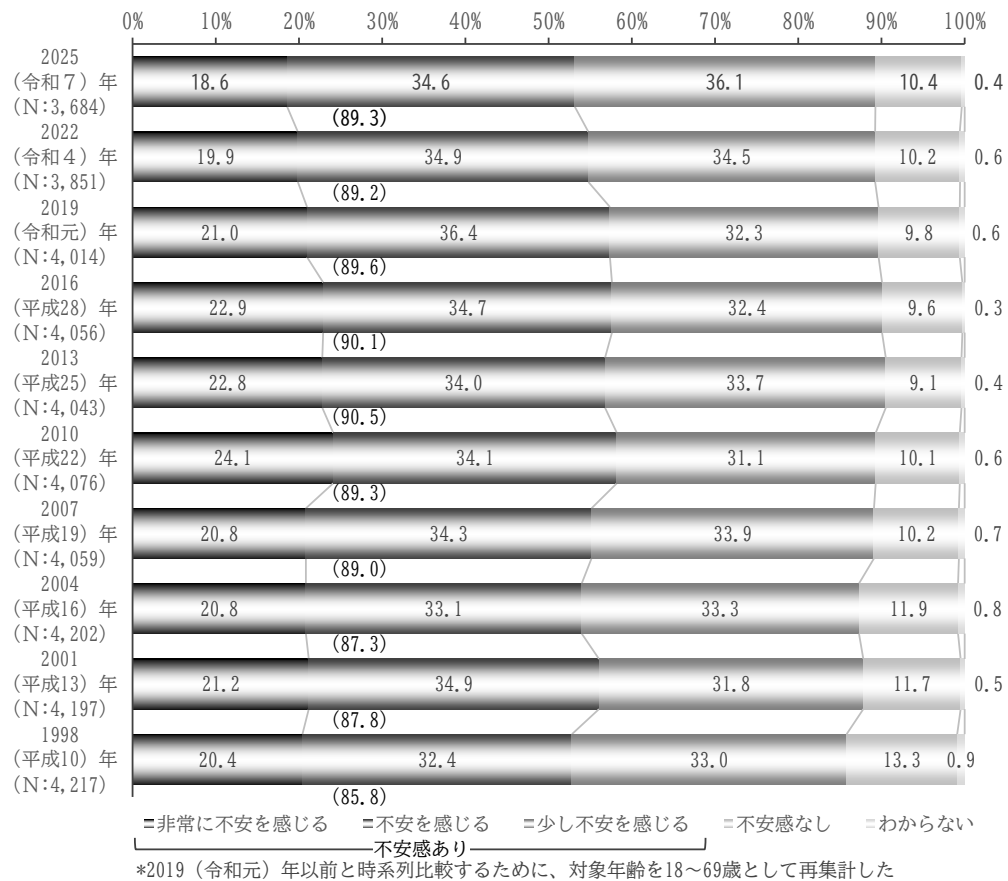
その結果、「不安感あり」（上記の選択肢で（ア）～（ウ）のいずれかに回答した人の合計）は88.6%、内訳としては“不安を感じる”と“少し不安を感じる”がそれぞれ3割を超え、“非常に不安を感じる”は18.8%となっている。また、「不安感なし」は11.0%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－1）

<図表Ⅱ-1> ケガや病気に対する不安の有無



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、「不安感あり」で女性（89.9%）が男性（86.8%）を3.1ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、「不安感あり」は男女とも50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ-2）

<図表 Ⅱ-2> ケガや病気に対する不安の有無〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	非常に不安 を感じる	不安を感じ る	少し不安を 感じる	不安感あり	不安感なし	わからない
男 性	2,101	16.9	33.4	36.5	86.8	12.9	0.3
20 歳 代	181	12.7	28.2	39.8	80.7▲	18.2	1.1
30 歳 代	225	15.6	33.8	33.8	83.1	16.4	0.4
40 歳 代	363	17.4	32.8	38.3	88.4	11.6	0.0
50 歳 代	406	17.5	34.7	40.6	92.9	6.9▲	0.2
60 歳 代	404	15.1	34.2	39.6	88.9	11.1	0.0
70 歳 代	485	20.6	33.6	30.3▲	84.5	15.1	0.4
女 性	2,736	20.3	35.5	34.1	89.9	9.6	0.5
20 歳 代	165	13.3▲	32.1	35.2	80.6▲	19.4	0.0
30 歳 代	282	17.7	36.2	34.4	88.3	11.7	0.0
40 歳 代	438	20.3	37.2	34.2	91.8	8.2	0.0
50 歳 代	576	23.3	36.8	33.5	93.6	5.4▲	1.0
60 歳 代	579	22.1	34.4	34.7	91.2	8.3	0.5
70 歳 代	668	19.0	35.3	33.4	87.7▲	11.5	0.7

(2) ケガや病気に対する不安の内容

前述「(1) ケガや病気に対する不安の有無」で「不安感あり」と回答した人に対して、その具体的な不安の内容を明らかにするため、以下のように尋ねた。

具体的にどのようなことを不安に思っていますか。この中からいくつかでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険だけでは不十分なこと……………以下「公的医療保険だけでは不十分」
- (イ) 長期の入院により医療費がかさむこと……………以下「長期の入院で医療費がかさむ」
- (ウ) 公的医療保険のきかない差額ベッド代が自己負担費用としてかかること……………以下「保険対象外の差額ベッド代がかかる」
- (エ) 公的医療保険のきかない先進医療の技術料が自己負担費用としてかかること……………以下「保険対象外の先進医療の費用がかかる」
- (オ) 家族の見舞いや看護など様々な付随的な費用がかかること……………以下「家族の見舞いなど付随的費用がかかる」
- (カ) 現在の経済的準備では必要となる費用がまかなえないこと……………以下「現在の準備では費用がまかなえない」
- (キ) 障害等により、就労困難・不能となること……………以下「障害等により就労不能となる」
- (ク) 治療が長期にわたり収入が途絶えること……………以下「治療の長期化で収入が途絶える」
- (ケ) 三大疾病であるガンや心疾患、脳血管疾患にかかること……………以下「三大疾病にかかる」
- (コ) 肝硬変や高血圧症、糖尿病などの慢性疾患にかかること……………以下「慢性疾患にかかる」
- (サ) 不慮の事故にあうこと……………以下「不慮の事故にあう」
- (シ) 後遺症や障害が残ること……………以下「後遺症や障害が残る」
- (ス) 適切な治療が受けられるかどうかかわからないこと……………以下「適切な治療が受けられるかわからない」
- (セ) 家族に肉体的・精神的負担をかけること……………以下「家族に肉体的・精神的負担をかける」
- (ソ) 入院前と同じように仕事に復帰できるかどうかかわからないこと……………以下「以前のように仕事に復帰できるかわからない」
- (タ) その他
わからない

その結果、「長期の入院で医療費がかさむ」が 49.5%と最も高く、以下「家族に肉体的・精神的負担をかける」(49.4%)、「後遺症や障害が残る」(45.1%)の順となっている。

前回と比較すると、「家族に肉体的・精神的負担をかける」が2.4ポイント減少し、「公的医療保険だけでは不十分」が2.4ポイント、「現在の準備では費用がまかなえない」が2.1ポイント、それぞれ増加している。(図表Ⅱ-3)

＜図表Ⅱ-3＞ ケガや病気に対する不安の内容

(複数回答, 単位: %)																		
	N	長期の入院で医療費がかさむ	家族に肉体的・精神的負担をかける	後遺症や障害が残る	公的医療保険だけでは不十分	三大疾病にかかる	不慮の事故にあう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	保険対象外の先進医療の費用がかかる	現在の準備では費用がまかなえない	慢性疾患にかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	以前のように仕事に復帰できるかわからない	家族の見舞いなど付随的費用がかかる	適切な治療が受けられるかわからない	その他	わからない
2025 (令和7) 年	4,284	49.5	49.4	45.1	43.8	42.9	41.2	37.9	32.8	30.1	29.7	27.5	24.4	21.6	20.7	18.3	0.5	0.8
2022 (令和4) 年	4,288	50.1	51.8	46.7	41.4	41.8	41.2	38.9	31.7	29.2	27.6	26.3	23.3	22.7	21.5	18.9	0.5	1.1

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみると、「長期の入院で医療費がかさむ」は2016（平成28）年以降、減少傾向が続いている。

（複数回答，単位：％）

	N	長期の入院で医療費がかさむ	家族に肉体的・精神的負担をかける	後遺症や障害が残る	公的医療保険だけでは不十分	三大疾病にかかる	不慮の事故にあう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	保険対象外の先進医療の費用がかかる	現在の準備では費用がまかなえない	慢性疾患にかかる	保険対象外の差額ベッド代がかかる	以前のように仕事に復帰できるかわからない	家族の見舞いなど付随的費用がかかる	適切な治療が受けられるかわからない	その他	わからない
2025 （令和7）年	3,288	49.3	49.8	46.7	43.7	42.7	41.8	43.8	37.2	30.1	31.1	27.7	23.3	25.2	21.9	17.8	0.5	0.6
2022 （令和4）年	3,436	49.8	52.3	48.1	41.8	42.1	42.1	44.2	35.1	29.7	28.8	26.9	22.5	26.0	22.5	18.6	0.4	0.9
2019 （令和元）年	3,598	51.8	52.3	46.3	42.0	42.9	40.8	43.7	36.3	30.3	31.2	25.4	21.9	25.4	23.4	18.2	0.5	0.6
2016 （平成28）年	3,653	53.6	54.2	47.5	41.9	42.5	41.7	42.0	34.9	34.1	30.6	25.4	23.4	23.7	23.0	20.1	0.7	0.7
2013 （平成25）年	3,659	55.5	44.3	36.6	44.9	34.4	36.4	35.0	30.0	33.7	29.8	19.0	21.4	20.0	18.6	15.0	0.6	0.8
2010 （平成22）年	3,639	58.6	48.1	39.3	52.3	38.0	37.1	35.3	32.5	35.5	32.6	22.1	25.3	21.0	18.8	18.6	0.7	0.8

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性別にみると、女性の方が高い項目は、「長期の入院で医療費がかさむ」、「家族に肉体的・精神的負担をかける」等の9項目となっている。男性は「障害等により就労不能となる」、「慢性疾患にかかる」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも30～50歳代で「障害等により就労不能となる」が高く、男性30～50歳代、女性40～50歳代で「治療の長期化で収入が途絶える」が、男性40～50歳代、女性30～50歳代で「以前のように仕事に復帰できるかわからない」が高くなっている。（図表Ⅱ-4）

<図表Ⅱ-4> ケガや病気に対する不安の内容〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	か長期の入院で医療費がかさむ	家族に肉体的・精神的負担をかける	後遺症や障害が残る	公的医療保険だけでは十分	三大疾病にかかる	不慮の事故にあう	障害等により就労不能となる	治療の長期化で収入が途絶える	医療の対象外の高額先進医療にかかる
男性	1,824	46.7	41.3	40.9	41.4	41.9	39.7	40.1	32.5	27.0
20歳代	146	43.8	41.1	40.4	30.8▲	30.8▲	42.5	42.5	34.2	19.9▲
30歳代	187	48.7	44.4	42.8	36.4	36.4	42.8	52.4	42.8	24.1
40歳代	321	41.7▲	46.1	43.9	38.6	42.4	40.5	49.8	41.4	23.1
50歳代	377	45.6	37.9	44.0	44.6	41.9	40.8	49.3	38.2	30.5
60歳代	359	48.7	39.8	40.4	46.0	47.1	36.2	34.8▲	28.7	27.6
70歳代	410	50.7	41.5	36.1▲	44.4	44.9	38.0	22.0▲	18.8▲	31.5
女性	2,460	51.5	55.5	48.2	45.5	43.6	42.3	36.3	33.1	32.4
20歳代	133	49.6	43.6▲	43.6	34.6▲	29.3▲	43.6	41.4	36.1	18.8▲
30歳代	249	50.2	57.0	42.6	42.2	39.4	49.8	46.6	38.2	28.1
40歳代	402	49.0	57.5	51.0	48.8	40.3	42.3	50.2	43.3	30.8
50歳代	539	53.6	57.0	49.7	48.4	46.2	37.3▲	44.7	43.6	36.0
60歳代	528	55.7	58.1	54.9	47.2	51.3	45.6	33.7	29.2▲	40.3
70歳代	586	49.7	53.2	42.2▲	43.7	42.3	39.9	16.0▲	18.3▲	28.8▲

	N	現在の準備では費用がかからない	慢性疾患にかかる	保険対象外の差額ベッド	以前のような仕事中に復帰できない	家族用が見えるなど付随	適切な治療を受けられない	その他	わからない
男性	1,824	28.0	29.1	20.4	20.9	18.5	15.2	0.8	0.8
20歳代	146	33.6	23.3	13.0▲	25.3	27.4	13.7	0.0	0.0
30歳代	187	30.5	21.9▲	17.6	21.4	18.7	10.7	0.5	0.5
40歳代	321	27.7	29.0	19.6	28.7	21.8	15.3	0.6	0.6
50歳代	377	27.9	29.7	19.9	28.4	17.0	14.9	0.3	0.3
60歳代	359	27.9	32.3	21.7	16.4▲	15.9	14.2	1.1	0.8
70歳代	410	26.1	32.2	24.9	10.2▲	17.1	19.5	1.5	2.0
女性	2,460	31.0	26.2	27.4	22.2	22.4	20.5	0.3	0.9
20歳代	133	36.8	16.5▲	13.5▲	27.8	19.5	12.8▲	0.0	0.0
30歳代	249	34.1	22.9	22.9	28.1	28.5	15.7▲	0.4	0.4
40歳代	402	33.6	24.4	22.9▲	29.1	26.4	17.7	0.2	0.2
50歳代	539	32.8	31.5	26.3	28.9	23.4	23.0	0.4	1.1
60歳代	528	30.7	30.7	34.8	20.1	22.3	25.6	0.6	0.9
70歳代	586	24.7▲	22.9▲	30.4	9.6▲	16.7▲	20.0	0.2	1.2

2. 過去5年間の入院経験

(1) 入院経験の有無と入院日数

ここでは、過去5年間の自分自身のケガや病気による入院経験の有無と通算入院日数について、以下のように尋ねた。

あなたは過去5年間に、ケガや病気で入院されたことがありますか。ただし正常な妊娠や分娩のための入院は除いてお答えください。

入院したことがある……………以下「入院経験あり」

入院したことはない……………以下「入院経験なし」

わからない

① 入院経験

その結果、「入院経験あり」の割合は17.7%となっている。

年齢別では、「入院経験あり」は高齢層ほど高く、70歳代では28.3%となっている。(図表Ⅱ-5)

<図表Ⅱ-5> 過去5年間の入院経験の有無〔年齢別〕

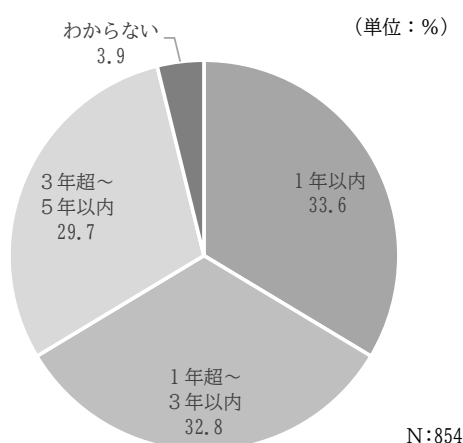
(単位: %)

	N	入院経験あり	入院経験なし	わからない
全 体	4,837	17.7	82.2	0.1
20 歳代	346	8.4▲	91.6	0.0
30 歳代	507	11.2▲	88.4	0.4
40 歳代	801	10.0▲	90.0	0.0
50 歳代	982	15.4▲	84.5	0.1
60 歳代	983	20.9	79.0▲	0.1
70 歳代	1,153	28.3	71.6▲	0.1

また、「入院経験あり」とした人の、一番最近の入院の時期は、「1年以内」が33.6%、「1年超～3年以内」が32.8%、「3年超～5年以内」が29.7%となっている。(図表Ⅱ-6)

<図表Ⅱ-6> 直近の入院の時期

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

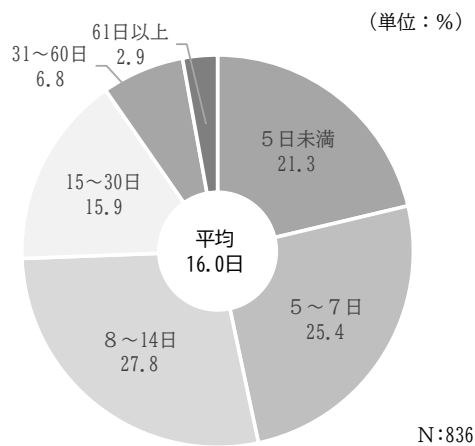


②直近の入院時の入院日数

入院経験がある人の、直近の入院における入院日数は、平均で 16.0 日となっている。入院日数の分布をみると、「8～14 日」が 27.8%、「5～7 日」が 25.4%となっている。（図表Ⅱ－7）

<図表Ⅱ-7> 直近の入院時の入院日数

[集計ベース：過去5年間に入院した人]



年齢別にみると、概ね高年齢層ほど入院日数が長くなっている。（図表Ⅱ－8）

<図表Ⅱ-8> 直近の入院時の入院日数〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

	N	5日未満	5～7日	8～14日	15～30日	31～60日	61日以上	平均 (日)
全 体	836	21.3	25.4	27.8	15.9	6.8	2.9	16.0
20 歳代	28	46.4	17.9	28.6	3.6	3.6	0.0	8.1
30 歳代	55	20.0	30.9	23.6	14.5	7.3	3.6	18.3
40 歳代	78	26.9	37.2	20.5	9.0	3.8	2.6	13.2
50 歳代	147	25.2	26.5	27.9	15.0	4.1	1.4	13.2
60 歳代	201	20.4	25.9	27.4	15.9	7.0	3.5	16.5
70 歳代	321	16.5▲	21.2▲	30.5	19.6	8.7	3.4	17.9

(2) 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

次に、直近の入院時の高額療養費制度の利用経験について、以下のように尋ねた。

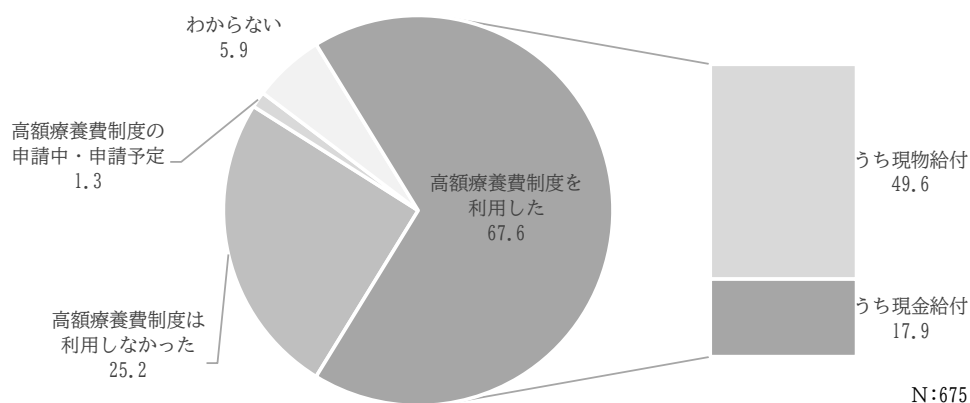
- その一番最近の入院で掛かった費用に関して高額療養費制度を利用しましたか。
- (ア) 高額療養費制度の現物給付（自己負担限度額分のみを支払った）を利用した
.....以下「現物給付を利用した」
- (イ) 高額療養費制度の現金給付（差額分の払い戻しを受けた）を利用した
.....以下「現金給付を利用した」
- (ウ) 高額療養費制度は利用しなかった（高額療養費制度が適用されない金額だった）
- (エ) 現在、高額療養費制度の利用を申請中、もしくはこれから申請する予定
.....以下「高額療養費制度の申請中・申請予定」
- わからない

その結果、「高額療養費制度を利用した」は 67.6%、「高額療養費制度は利用しなかった」は 25.2% となっている。また、「高額療養費制度を利用した」人のうち、「現物給付を利用した」が 49.6%、「現金給付を利用した」が 17.9%となっている。（図表Ⅱ－9）

<図表Ⅱ-9> 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)



直近の入院時の高額療養費制度の利用経験を年齢別にみると、「現金給付を利用した」は 60 歳代で 23.0%となっている。（図表Ⅱ－10）

<図表Ⅱ-10> 直近の入院時の高額療養費制度の利用経験〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

	N	現物給付を利用した	現金給付を利用した	高額療養費制度を利用した	高額療養費制度は利用しなかった	高額療養費制度の申請中・申請予定	わからない
全 体	675	49.6	17.9	67.6	25.2	1.3	5.9
20 歳 代	19	52.6	10.5	63.2	31.6	0.0	5.3
30 歳 代	39	53.8	12.8	66.7	25.6	0.0	7.7
40 歳 代	62	51.6	9.7	61.3	32.3	1.6	4.8
50 歳 代	121	50.4	15.7	66.1	26.4	2.5	5.0
60 歳 代	178	49.4	23.0	72.5	20.2	1.1	6.2
70 歳 代	255	48.2	18.4	66.7	25.9	1.2	6.3

(3)直近の入院時の自己負担費用

直近の入院時の自己負担費用について、以下のように尋ねた。

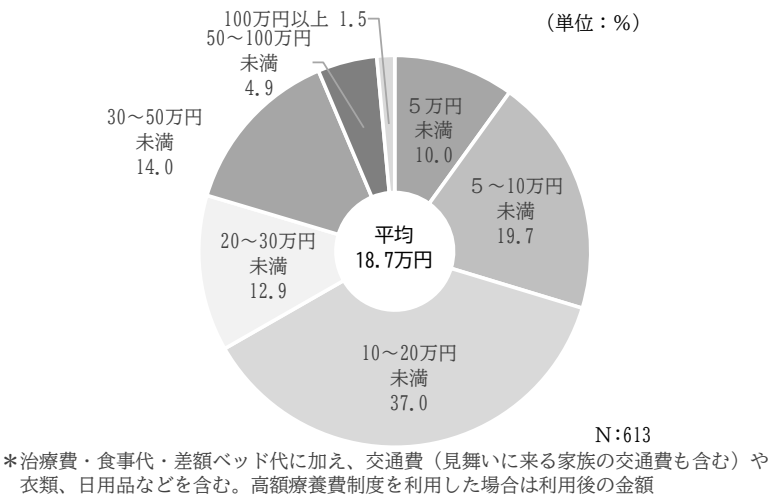
その一番最近の入院で実際に掛かった費用は全部でおよそいくらぐらいでしたか。治療費・食事代・差額ベッド代に、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品なども含めてお答えください。高額療養費制度を利用した場合は、利用後の金額をお答えください。

約□□□□万□千円
掛かった費用はない
わからない

その結果、高額療養費制度を利用した人及び利用しなかった人（適用外含む）の直近の入院時の自己負担費用*の平均は 18.7 万円となっている。費用の分布をみると、「10～20 万円未満」が 37.0%、「5～10 万円未満」が 19.7%、「30～50 万円未満」が 14.0%、「20～30 万円未満」が 12.9%となっている。（図表Ⅱ－11）

<図表 Ⅱ-11> 直近の入院時の自己負担費用

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人（適用外含む）)]



直近の入院時の入院日数別に自己負担費用をみると、入院日数が長くなるほど自己負担費用が高く、“61 日以上”では 58.5 万円となっている。（図表Ⅱ－12）

<図表 Ⅱ-12> 直近の入院時の自己負担費用〔直近の入院時の入院日数別〕

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人（適用外含む）)]

		(単位：%)							平均 (万円)
	N	5万円 未満	5～10万円 未満	10～20万円 未満	20～30万円 未満	30～50万円 未満	50～100万円 未満	100万円 以上	
全 体	613	10.0	19.7	37.0	12.9	14.0	4.9	1.5	18.7
5 日 未 満	132	20.5	27.3	38.6	4.5▲	6.8▲	2.3	0.0	11.0
5 ～ 7 日	164	12.2	21.3	40.9	10.4	11.6	3.0	0.6	14.8
8 ～ 14 日	171	6.4	19.9	40.9	17.0	10.5	4.7	0.6	17.2
15 ～ 30 日	92	3.3▲	13.0	32.6	20.7	22.8	5.4	2.2	24.7
31 ～ 60 日	34	0.0▲	8.8	26.5	17.6	29.4	11.8	5.9	36.1
61 日 以 上	16	0.0	0.0▲	0.0▲	6.3	56.3	25.0	12.5	58.5

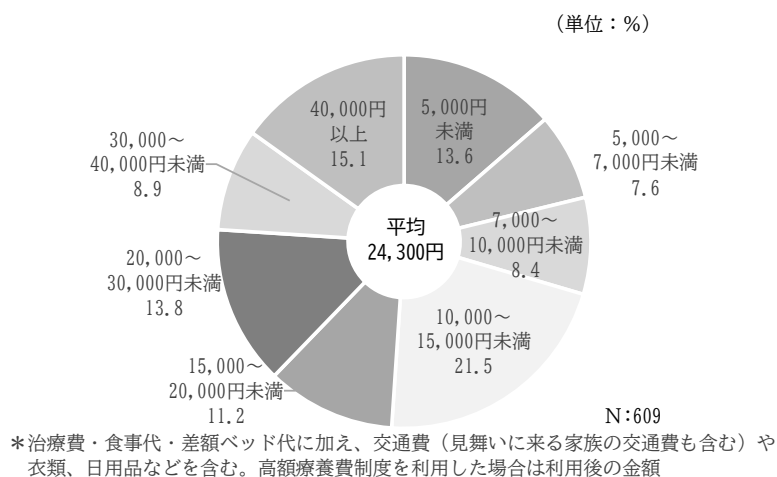
*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費（見舞いに来る家族の交通費も含む）や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

自己負担費用の総額を入院日数で除した1日あたりの自己負担費用*は、平均で24,300円となっている。費用の分布をみると、「10,000～15,000円未満」が21.5%と最も高く、以下「40,000円以上」(15.1%)、「20,000～30,000円未満」(13.8%)、「5,000円未満」(13.6%)の順となっている。(図表Ⅱ-13)

*サンプルごとに算出したものの平均値

<図表Ⅱ-13> 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))]



直近の入院の時期別に1日あたりの自己負担費用をみると、“3年超～5年以内”で26,700円と最も高い金額となっている。(図表Ⅱ-14)

<図表Ⅱ-14> 直近の入院時の1日あたりの自己負担費用〔直近の入院の時期別〕

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人
(高額療養費制度を利用した人+利用しなかった人(適用外含む))]

(単位：%)

	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	平均値(円)
全 体	609	13.6	7.6	8.4	21.5	11.2	13.8	8.9	15.1	24,300
1 年 以 内	213	11.7	8.5	8.5	25.8	13.1	8.9▲	10.3	13.1	23,900
1 年 超 ～ 3 年 以 内	205	13.7	7.3	11.2	19.0	10.7	18.0	5.4▲	14.6	23,500
3 年 超 ～ 5 年 以 内	169	15.4	7.1	4.7▲	18.3	9.5	14.2	11.2	19.5	26,700

*治療費・食事代・差額ベッド代に加え、交通費(見舞いに来る家族の交通費も含む)や衣類、日用品などを含む。高額療養費制度を利用した場合は利用後の金額

(4) 直近の入院時の逸失収入の有無

直近の入院時の逸失収入について、以下のように尋ねた。

その一番最近の入院により失われた収入はおよそいくらぐらいでしたか。

約□□□□万□千円

失われた収入はない

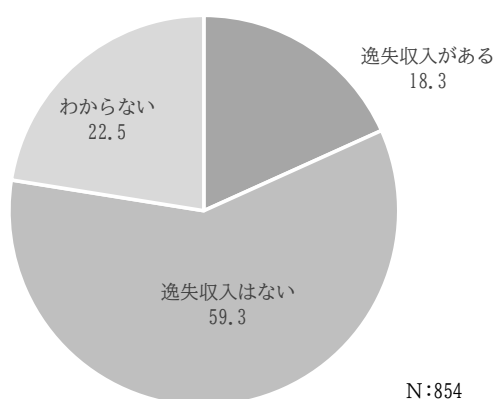
わからない

その結果、入院経験がある人の、直近の入院において逸失収入があった割合は 18.3% となっている。
(図表 II-15)

<図表 II-15> 直近の入院時の逸失収入の有無

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)



年齢別にみると、「逸失収入がある」は70歳代で低くなっている。(図表 II-16)

<図表 II-16> 直近の入院時の逸失収入の有無〔年齢別〕

[集計ベース：過去5年間に入院した人]

(単位：%)

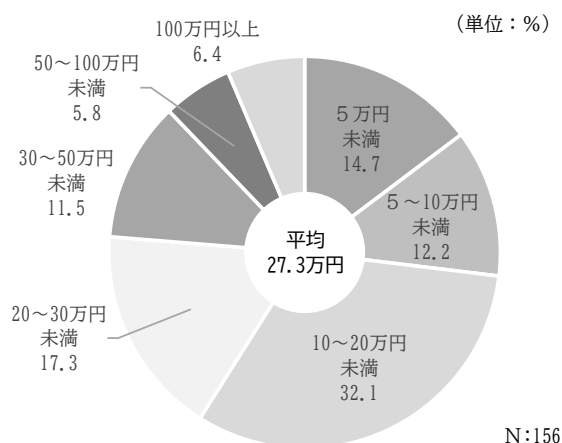
	N	逸失収入がある	逸失収入はない	わからない
全 体	854	18.3	59.3	22.5
20 歳 代	29	10.3	65.5	24.1
30 歳 代	57	21.1	54.4	24.6
40 歳 代	80	22.5	55.0	22.5
50 歳 代	151	22.5	55.0	22.5
60 歳 代	205	22.4	60.0	17.6
70 歳 代	326	13.2▲	62.0	24.8

(5) 直近の入院時の逸失収入

逸失収入があった人の直近の入院時の逸失収入の平均は27.3万円となっている。分布をみると、「10～20万円未満」が32.1%、「20～30万円未満」が17.3%、「5万円未満」が14.7%となっている。（図表Ⅱ－17）

<図表Ⅱ-17> 直近の入院時の逸失収入

〔集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人〕

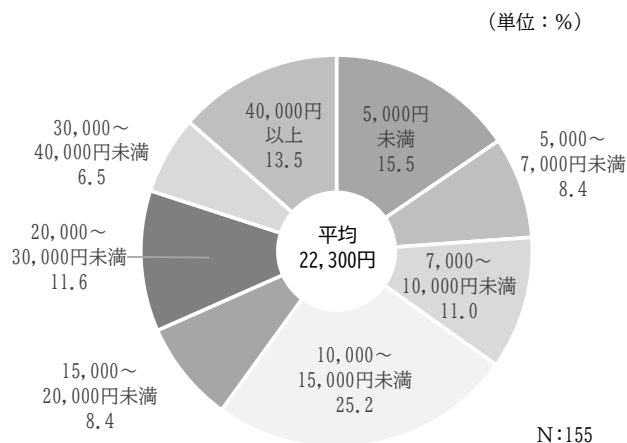


逸失収入の総額を入院日数で除した1日あたりの逸失収入*は、平均で22,300円となっている。分布をみると、「10,000～15,000円未満」が25.2%、「5,000円未満」が15.5%、「40,000円以上」が13.5%となっている。（図表Ⅱ－18）

*サンプルごとに算出したものの平均値

<図表Ⅱ-18> 直近の入院時の1日あたりの逸失収入

〔集計ベース：過去5年間に入院し、逸失収入があった人〕

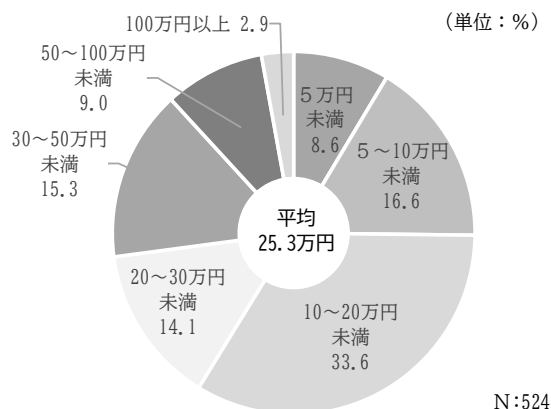


(6)直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

入院経験がある人の、直近の入院における自己負担費用と逸失収入の総額*の平均は 25.3 万円となっている。分布をみると、「10～20 万円未満」が 33.6%、「5～10 万円未満」が 16.6%、「30～50 万円未満」が 15.3%となっている。(図表Ⅱ－19)

<図表Ⅱ-19> 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]



* 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

直近の入院時の入院日数別に自己負担費用と逸失収入の総額をみると、概ね入院日数が長くなるほど平均額が高くなっている。(図表Ⅱ－20)

<図表Ⅱ-20> 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の総額〔直近の入院時の入院日数別〕

[集計ベース：過去5年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人]

(単位：%)

	N	5万円未満	5～10万円未満	10～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50～100万円未満	100万円以上	平均(万円)
全 体	524	8.6	16.6	33.6	14.1	15.3	9.0	2.9	25.3
5 日 未 満	118	19.5	24.6	39.0	7.6▲	5.9▲	2.5▲	0.8	12.8
5 ～ 7 日	134	10.4	17.2	40.3	10.4	15.7	4.5▲	1.5	18.1
8 ～ 14 日	147	5.4	17.0	32.0	17.7	17.7	8.2	2.0	24.4
15 ～ 30 日	80	0.0▲	10.0	28.8	21.3	16.3	21.3	2.5	33.1
31 ～ 60 日	27	0.0	3.7	22.2	22.2	33.3	7.4	11.1	44.7
61 日 以 上	15	0.0	0.0	0.0▲	6.7	26.7	46.7	20.0	95.6

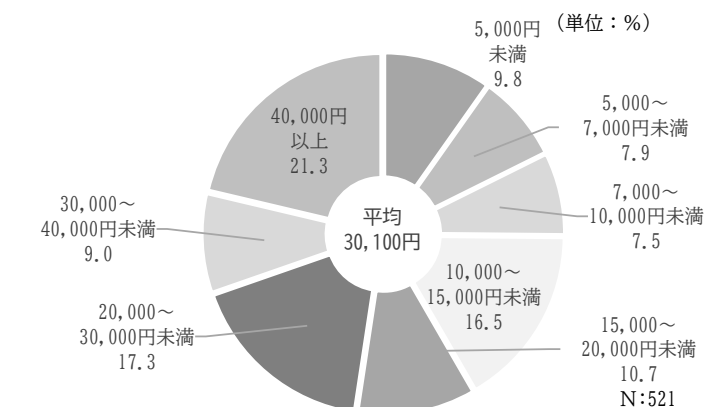
* 直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

自己負担費用と逸失収入の総額を入院日数で除した１日あたりの額*をみると、平均は30,100円となっている。分布をみると、「40,000円以上」が21.3%、「20,000～30,000円未満」が17.3%、「10,000～15,000円未満」が16.5%、「15,000～20,000円未満」が10.7%となっている。（図表Ⅱ－21）

*サンプルごとに算出したものの平均値

<図表Ⅱ-21> 直近の入院時の１日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額

〔集計ベース：過去５年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人〕



*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

直近の入院の時期別に１日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額をみると、“３年超～５年以内”で最も高く、31,400円となっている。（図表Ⅱ－22）

<図表Ⅱ-22> 直近の入院時の１日あたりの自己負担費用と逸失収入の総額〔直近の入院の時期別〕

〔集計ベース：過去５年間に入院し、自己負担費用を支払った人もしくは逸失収入があった人〕

		(単位：%)								
	N	5,000円未満	5,000～7,000円未満	7,000～10,000円未満	10,000～15,000円未満	15,000～20,000円未満	20,000～30,000円未満	30,000～40,000円未満	40,000円以上	平均(円)
全 体	521	9.8	7.9	7.5	16.5	10.7	17.3	9.0	21.3	30,100
1 年 以 内	191	8.4	8.4	7.3	19.4	13.6	14.1	11.0	17.8	30,600
1 年 超 ～ 3 年 以 内	174	9.8	8.0	8.6	16.7	9.8	19.5	5.2▲	22.4	29,000
3 年 超 ～ 5 年 以 内	139	10.8	7.2	6.5	12.9	8.6	18.0	10.8	25.2	31,400

*直近の入院時の自己負担費用と逸失収入の合計
自己負担費用が無い場合、逸失収入が無い場合は「0円」として平均を算出

(7) 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段

直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段について、以下のように尋ねた。

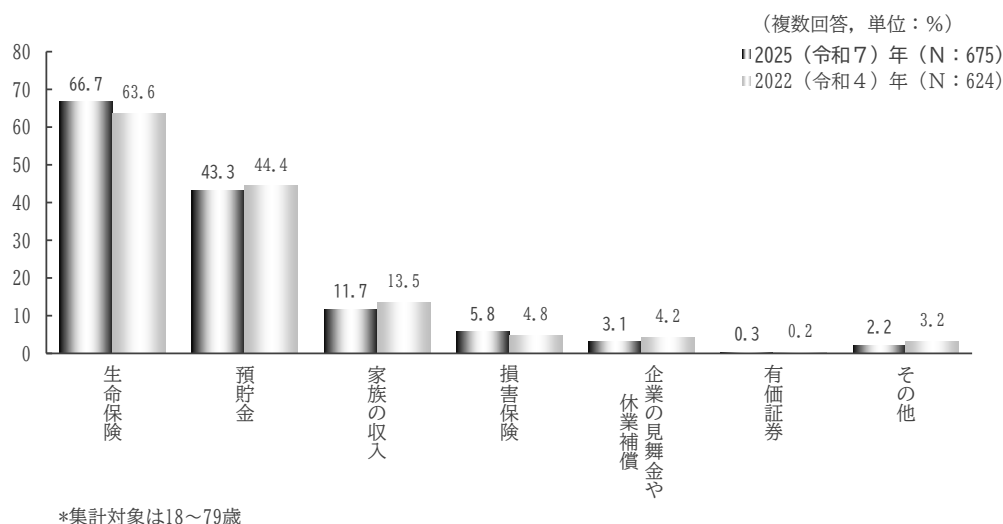
その一番最近の入院で実際に掛かった費用や失われた収入をどのような手段でまかないましたか。この中からいくつかもお答えください。

- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）……………以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券……………以下「有価証券」
- (オ) 企業の見舞金や休業補償
- (カ) 家族の収入
- (キ) その他
わからない

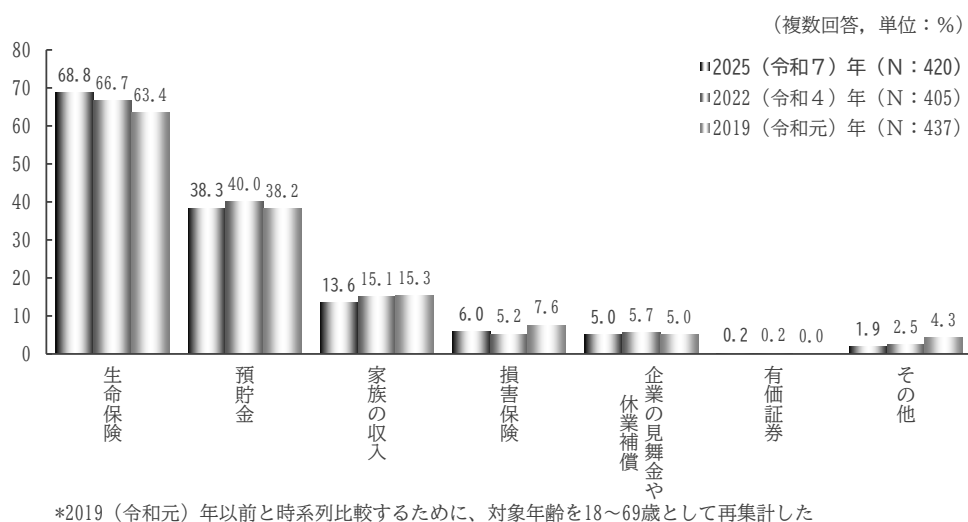
その結果、「生命保険」が 66.7%で最も高く、以下「預貯金」(43.3%)、「家族の収入」(11.7%)の順となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表Ⅱ-23)

<図表Ⅱ-23> 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



年齢別にみると、20 歳代と 40 歳代で「家族の収入」が、30 歳代は「企業の見舞金や休業補償」が、70 歳代は「預貯金」が、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－24）

<図表 Ⅱ-24> 直近の入院時の自己負担費用や逸失収入の充当手段〔年齢別〕

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	預 貯 金	家 族 の 収 入	損 害 保 険	休 企 業 業 補 の 償 見 舞 金 や	有 価 証 券	そ の 他	わ か ら な い
全 体	675	66.7	43.3	11.7	5.8	3.1	0.3	2.2	1.5
20 歳 代	19	47.4	21.1▲	42.1○	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
30 歳 代	39	59.0	41.0	15.4	0.0	12.8○	0.0	2.6	0.0
40 歳 代	62	71.0	33.9	21.0○	9.7	3.2	0.0	1.6	1.6
50 歳 代	121	73.6	37.2	9.1	4.1	5.0	0.8	2.5	1.7
60 歳 代	178	69.7	42.1	10.1	7.9	3.9	0.0	1.7	1.1
70 歳 代	255	63.1	51.4○	8.6	5.5	0.0▲	0.4	2.7	2.0

3. 公的医療保険に対する意識

ここでは、医療保障に対する私的準備の意識や実態を探るうえで前提となる、人々の公的医療保険に対する評価などの意識面について捉えている。

(1) 公的医療保険に対する考え方

自分の医療費を公的医療保険でまかなえると考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

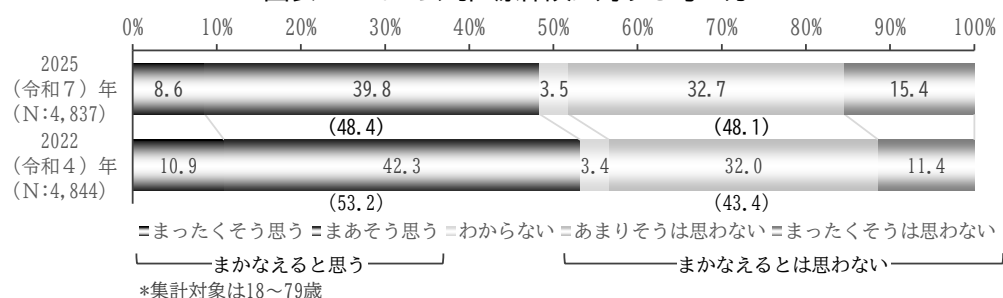
自分の医療費は、今後も公的な健康保険だけで大部分まかなえる

- (ア) まったくそう思う
- (イ) まあそう思う
- (ウ) あまりそうは思わない
- (エ) まったくそうは思わない
- わからない

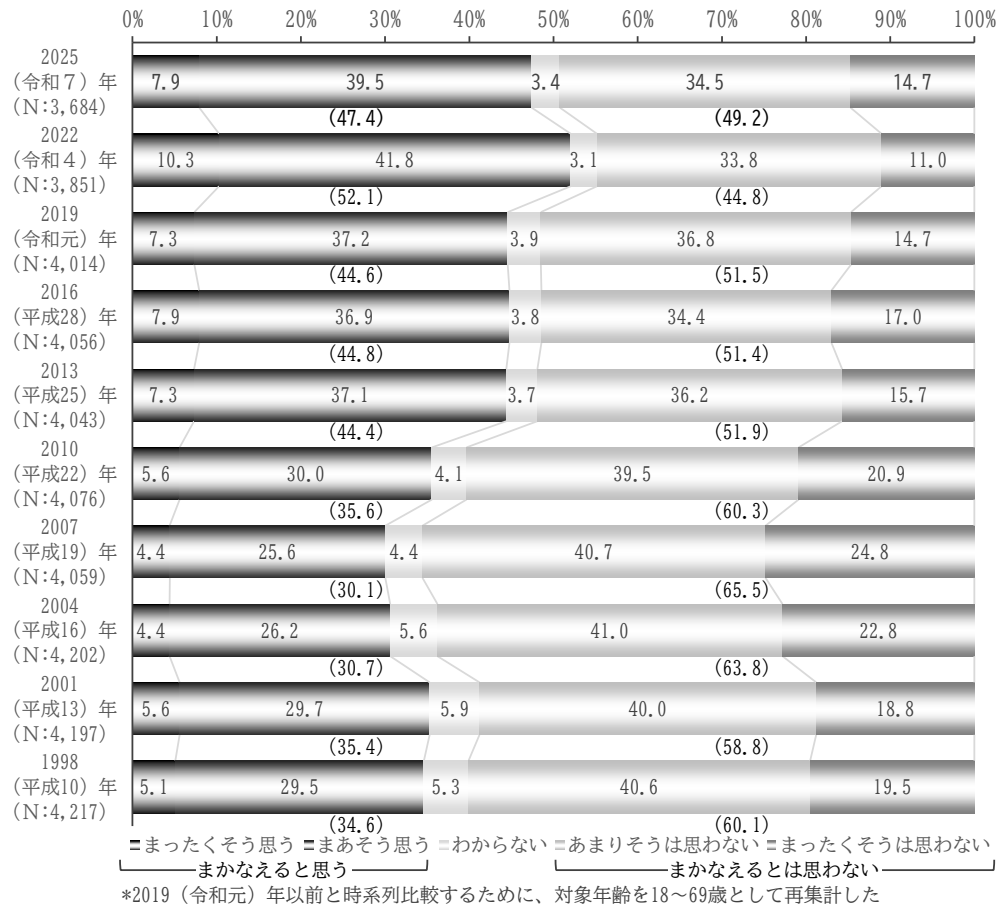
その結果、「まかなえると思う」（“まったくそう思う”と“まあそう思う”と回答した人の合計）は 48.4%、「まかなえるとは思わない」（“あまりそうは思わない”と“まったくそうは思わない”と回答した人の合計）は 48.1%となっている。

前回と比較すると、「まかなえるとは思わない」が 4.7 ポイント増加し、「まかなえると思う」が 4.8 ポイント減少している。（図表Ⅱ－25）

<図表Ⅱ-25> 公的医療保険に対する考え方



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、「まかなえるとは思う」は男性 50.4%、女性 46.8%と男性の方が高くなっている。
性・年齢別にみると、「まかなえると思う」は男性の 20 歳代、女性の 70 歳代で高く、「まかなえるとは思わない」は男性 40 歳代で高くなっている。（図表Ⅱ-26）

<図表 Ⅱ-26> 公的医療保険に対する考え方〔性・年齢別〕

(単位：%)								
	N	まったく そう思う	まあ そう思う	まかなえる と思う	わからない	まかなえる とは思 わない	あまりそう は思わない	まったく そうは 思わない
男 性	2,101	10.3	40.1	50.4	3.2	46.4	31.9	14.5
20 歳 代	181	9.9	47.5	57.5	6.6	35.9▲	26.0	9.9
30 歳 代	225	10.7	42.2	52.9	2.2	44.9	34.7	10.2
40 歳 代	363	10.2	35.8	46.0	2.2	51.8	36.1	15.7
50 歳 代	406	8.4	39.9	48.3	2.2	49.5	36.0	13.5
60 歳 代	404	9.4	40.6	50.0	2.5	47.5	32.7	14.9
70 歳 代	485	12.0	39.4	51.3	3.5	45.2	27.0▲	18.1
女 性	2,736	7.3	39.5	46.8	3.7	49.5	33.3	16.2
20 歳 代	165	8.5	42.4	50.9	9.7	39.4▲	30.9	8.5▲
30 歳 代	282	8.2	38.7	46.8	2.8	50.4	35.1	15.2
40 歳 代	438	5.3	39.0	44.3	2.5	53.2	35.6	17.6
50 歳 代	576	6.3	38.4	44.6	2.8	52.6	33.9	18.8
60 歳 代	579	6.4	38.3	44.7	3.3	52.0	37.8	14.2
70 歳 代	668	9.9	41.8	51.6	4.0	44.3▲	26.9▲	17.4

(2)医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か

ケガや病気による治療や入院に対する準備に対して、今後、公的保障の充実を志向しているのか、自助努力での準備を志向しているのかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここに、ケガや病気で治療や入院されることになった場合の備えについて、A、B 2つの考え方があげられています。あなたのお考えは、A、B どちらの考え方に近いでしょうか。

A：自助努力で準備していくよりは、今より高い保険料や税金を払ってでも公的医療保険を充実してもらいたい

B：公的医療保険の充実のために今よりも高い保険料や税金を払うよりは、自助努力で準備していきたい

(ア) Aに近い

(イ) どちらかといえばAに近い

(ウ) どちらかといえばBに近い

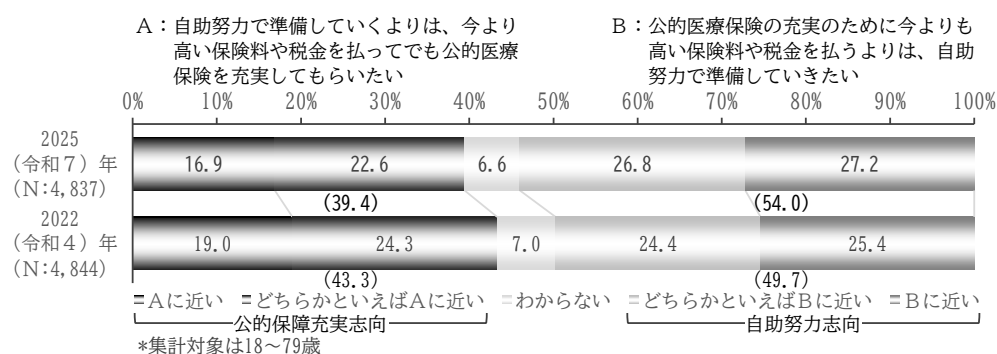
(エ) Bに近い

わからない

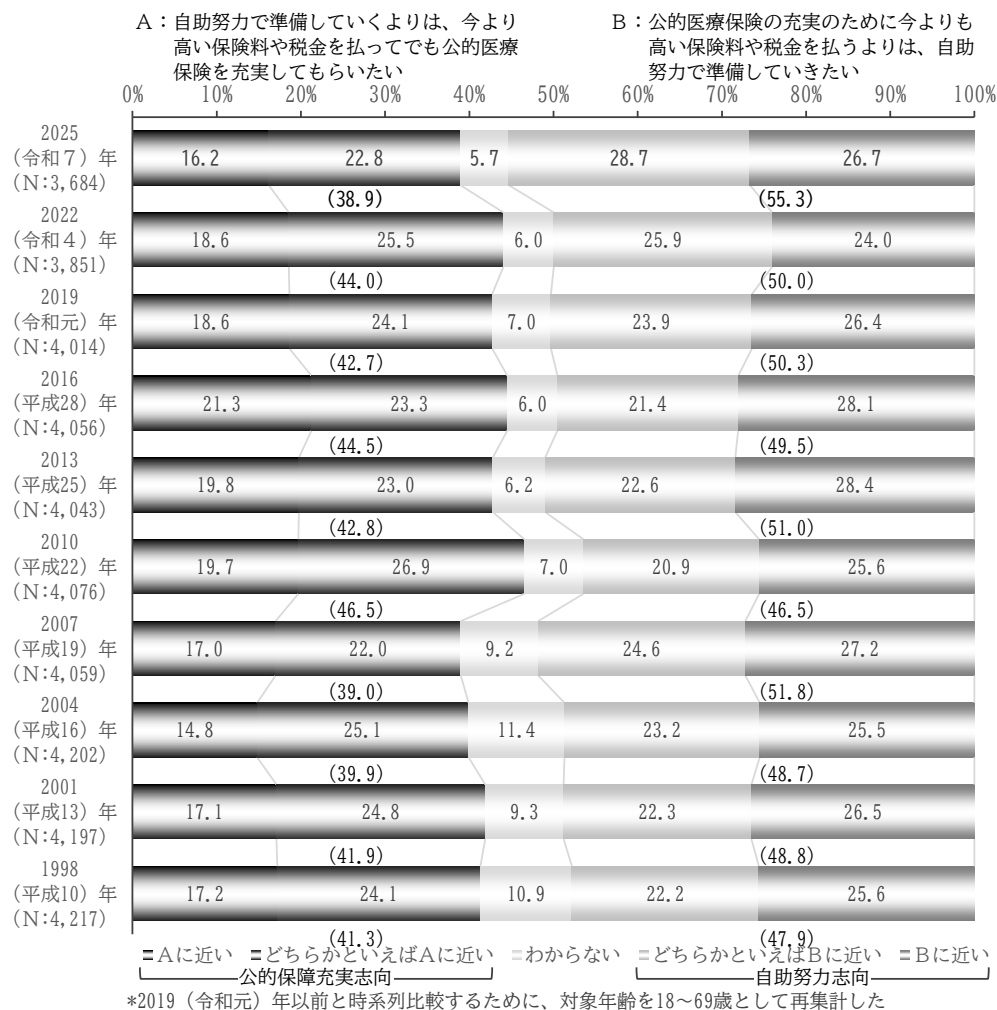
その結果、「公的保障充実志向」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は39.4%、「自助努力志向」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は54.0%となっている。

前回と比較すると、「自助努力志向」が4.3ポイント増加し、「公的保障充実志向」が3.9ポイント減少している。（図表Ⅱ-27）

<図表Ⅱ-27> 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、「公的保障充実志向」は男性で 42.6%、女性で 37.1%と男性の方が高くなっている。
性・年齢別にみると、「自助努力志向」は男性 40 歳代、女性 30 歳代で高くなっている。(図表 II-28)

<図表 II-28> 医療保障は公的保障充実志向か自助努力志向か〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	Aに近い	どちらかといえばAに近い	公的保障充実志向	わからない	自助努力志向	どちらかといえばBに近い	Bに近い
男性	2,101	19.1	23.4	42.6	5.1	52.4	24.6	27.7
20歳代	181	16.6	29.8	46.4	2.2	51.4	26.0	25.4
30歳代	225	16.4	21.8	38.2	5.3	56.4	31.6	24.9
40歳代	363	14.3▲	22.0	36.4▲	3.0▲	60.6	27.0	33.6
50歳代	406	19.2	24.1	43.3	5.2	51.5	25.9	25.6
60歳代	404	20.5	22.8	43.3	3.7	53.0	23.8	29.2
70歳代	485	22.9	23.3	46.2	8.9	44.9▲	18.4▲	26.6
女性	2,736	15.2	21.9	37.1	7.7	55.2	28.5	26.8
20歳代	165	15.8	25.5	41.2	4.2	54.5	35.8	18.8▲
30歳代	282	9.6▲	20.6	30.1▲	6.0	63.8	35.8	28.0
40歳代	438	12.1	21.7	33.8	6.8	59.4	34.0	25.3
50歳代	576	16.5	22.2	38.7	5.9	55.4	27.8	27.6
60歳代	579	16.6	22.6	39.2	9.5	51.3▲	26.4	24.9
70歳代	668	16.6	20.8	37.4	9.6	53.0	22.6▲	30.4

4. 医療保障に対する私的準備状況

ここでは、医療保障に対する私的な経済的準備の状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたのご家庭では、あなたご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、公的医療保険以外で、現在経済的な準備をしていますか。この中に準備しているものがあれば、いくつでもお答えください。

- (ア) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
.....以下「生命保険」
- (イ) 損害保険
- (ウ) 預貯金
- (エ) 株式・債券などの有価証券以下「有価証券」
- (オ) その他
- (カ) 特別な準備はしていない以下「準備していない」
わからない

その結果、「準備している」（上記の選択肢で（ア）～（オ）のいずれかに回答した人）は 83.9%、「準備していない」は 14.4%となっている。

具体的な準備手段をみると、「生命保険」が最も高く 70.2%、以下「預貯金」（44.5%）、「損害保険」（19.1%）の順となっている。

前回と比較すると、「有価証券」が 2.2 ポイント増加している。（図表 II-29）

<図表 II-29> 医療保障に対する私的準備状況

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	その 他	準備 して いる	準備 して いない	わ か ら ない
2025 （令和7）年	4,837	70.2	19.1	44.5	10.0	0.3	83.9	14.4	1.7
2022 （令和4）年	4,844	68.8	20.8	44.5	7.8	0.3	82.7	15.3	2.0

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみると、「有価証券」は2013（平成25）年以降、増加傾向が続いている。

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	その他	準備 してい る	準備 してい ない	わか らない
2025 （令和7）年	3,684	71.2	19.8	42.1	10.3	0.3	83.6	14.6	1.8
2022 （令和4）年	3,851	69.8	21.4	42.1	8.0	0.2	82.7	15.1	2.2
2019 （令和元）年	4,014	73.1	20.6	41.8	5.8	0.4	85.0	12.9	2.1
2016 （平成28）年	4,056	72.9	20.9	42.0	5.6	0.5	84.2	14.1	1.7
2013 （平成25）年	4,043	70.5	19.5	38.3	5.1	0.6	82.8	15.9	1.3
2010 （平成22）年	4,076	71.0	19.8	38.1	5.4	0.5	82.2	15.9	1.9
2007 （平成19）年	4,059	70.3	24.8	37.7	5.5	0.5	82.0	16.5	1.4
2004 （平成16）年	4,202	68.0	21.8	37.5	4.1	0.3	79.3	17.2	3.5
2001 （平成13）年	4,197	66.9	25.9	40.2	4.6	0.4	80.2	16.9	2.8
1998 （平成10）年	4,217	70.4	25.9	42.5	4.4	0.3	81.8	15.8	2.4

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性別にみると、男性で「損害保険」と「有価証券」が、女性で「生命保険」と「預貯金」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「準備している」は男女とも50～60歳代で高くなっている。具体的な準備手段をみると、「生命保険」は男女とも40～60歳代で高く、「預貯金」は男女とも60～70歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－30）

<図表Ⅱ-30> 医療保障に対する私的準備状況〔性・年齢別〕

（複数回答，単位：％）

	N	生命 保険	損害 保険	預貯 金	有価 証券	その他	準備 してい る	準備 してい ない	わか らない
男 性	2,101	67.7	21.8	42.8	13.3	0.3	82.8	15.5	1.8
20 歳 代	181	46.4▲	11.0▲	28.2▲	10.5	0.0	61.9▲	32.6	5.5
30 歳 代	225	62.2	16.4▲	41.3	15.6	0.0	80.4	18.7	0.9
40 歳 代	363	73.0	25.9	44.4	14.9	0.8	85.7	12.9	1.4
50 歳 代	406	71.9	27.6	39.2	13.8	0.0	87.7	11.3▲	1.0
60 歳 代	404	76.5	25.0	48.8	16.8	0.5	90.1	9.4▲	0.5▲
70 歳 代	485	66.2	18.4▲	48.0	9.7▲	0.2	82.3	16.3	1.4
女 性	2,736	72.0	17.0	45.8	7.5	0.3	84.7	13.6	1.6
20 歳 代	165	38.2▲	4.8▲	23.6▲	3.6	1.2	50.9▲	40.6	8.5
30 歳 代	282	72.3	15.6	46.5	7.8	0.0	85.1	13.1	1.8
40 歳 代	438	79.2	15.1	40.2▲	6.2	0.7	86.8	12.6	0.7
50 歳 代	576	78.5	19.1	42.9	8.7	0.0	88.2	11.5	0.3▲
60 歳 代	579	77.2	22.5	49.6	6.7	0.0	89.5	10.0▲	0.5▲
70 歳 代	668	67.5▲	15.9	55.2	9.0	0.6	86.7	12.1	1.2

性・本人職業別にみると、「準備している」は男性では自営者、公務員、大企業被用者で、女性では公務員でそれぞれ高くなっている。

性・本人年収別では、男女とも概ね高年収層ほど「準備している」が高くなっている。（図表Ⅱ－31）

<図表 Ⅱ-31> 医療保障に対する私的準備状況〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

（複数回答，単位：％）

		N	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	その他	準備している	準備していない	わからない
男	性	2,101	67.7	21.8	42.8	13.3	0.3	82.8	15.5	1.8
本人職業	自 営 者	310	74.2	26.8	49.0	14.2	1.0	90.0	9.0▲	1.0
	農 林 漁 業	44	84.1	29.5	50.0	4.5	0.0	95.5	2.3▲	2.3
	商工サービス業	226	75.7	28.3	50.4	14.6	1.3	91.6	8.0▲	0.4
	常 雇 被 用 者	1,086	72.9	24.1	43.2	15.2	0.1	87.3	11.8▲	0.9▲
	公 務 員	107	81.3	34.6	52.3	19.6	0.0	95.3	1.9▲	2.8
	民間企業被用者	979	72.0	23.0	42.2	14.7	0.1	86.4	12.9▲	0.7▲
	小企業被用者	192	71.9	26.6	36.5	9.9	0.0	84.4	14.1	1.6
	中企業被用者	491	68.6	19.3	41.1	12.2	0.0	85.1	14.5	0.4▲
	大企業被用者	273	78.0	28.6	48.7	23.1	0.4	90.8	8.8▲	0.4
	非 正 規 社 員	166	61.4	17.5	35.5▲	7.8▲	0.0	74.7▲	24.1	1.2
	無 職	447	58.8▲	16.3▲	45.6	11.6	0.4	77.2▲	21.3	1.6
本人年収	収 入 は な い	93	29.0▲	9.7▲	17.2▲	2.2▲	0.0	40.9▲	50.5	8.6
	300 万 円 未 満	631	58.5▲	16.5▲	37.4▲	7.3▲	0.3	75.4▲	22.3	2.2
	300～500万円未満	472	71.0	23.9	41.9	11.9	0.2	88.3	11.0▲	0.6▲
	500～700万円未満	335	77.6	23.6	50.1	18.8	0.3	91.6	8.1▲	0.3▲
	700～1,000万円未満	187	86.1	36.4	51.9	23.0	0.0	95.7	4.3▲	0.0
	1,000 万 円 以 上	89	78.7	37.1	61.8	46.1	0.0	96.6	3.4▲	0.0
女	性	2,736	72.0	17.0	45.8	7.5	0.3	84.7	13.6	1.6
本人職業	自 営 者	190	80.5	27.9	45.8	11.1	1.1	90.5	9.5	0.0
	農 林 漁 業	25	92.0	28.0	56.0	4.0	0.0	100.0	0.0▲	0.0
	商工サービス業	141	77.3	28.4	44.7	12.8	0.0	87.9	12.1	0.0
	常 雇 被 用 者	672	76.5	19.0	44.8	8.0	0.4	86.2	12.4	1.5
	公 務 員	85	83.5	21.2	56.5	9.4	0.0	92.9	7.1	0.0
	民間企業被用者	587	75.5	18.7	43.1	7.8	0.5	85.2	13.1	1.7
	小企業被用者	139	78.4	18.0	36.7▲	7.2	0.7	86.3	10.8	2.9
	中企業被用者	282	73.8	14.9	44.0	6.0	0.0	83.0	14.9	2.1
	大企業被用者	135	77.0	26.7	45.9	11.9	1.5	87.4	12.6	0.0
	非 正 規 社 員	765	76.9	15.0	41.8▲	5.9▲	0.0	85.9	12.9	1.2
	無 職	1,027	66.4▲	16.2	51.2	8.0	0.4	84.6	14.1	1.3
本人年収	収 入 は な い	400	65.3▲	16.0	42.8	6.0	0.5	79.5▲	17.0	3.5
	100 万 円 未 満	615	68.6▲	16.4	45.5	6.8	0.3	85.0	13.2	1.8
	100～300万円未満	923	74.1	16.6	44.0	7.4	0.1	84.6	14.2	1.2
	300～500万円未満	299	75.6	18.7	51.5	10.4	0.3	87.0	12.7	0.3
	500 万 円 以 上	126	83.3	25.4	58.7	19.8	1.6	96.0	4.0▲	0.0

5. 医療保障としての生命保険

前節「4. 医療保障に対する私的準備状況」でみたように、「生命保険」による準備割合は約7割となっており、私的な経済的準備の中心的役割を果たしているといえる。

本節では、医療保障としての生命保険という観点から、疾病入院特約の付加された生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）、および医療保険について、加入率および疾病入院給付金日額の実態をみていく。

(1) 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率

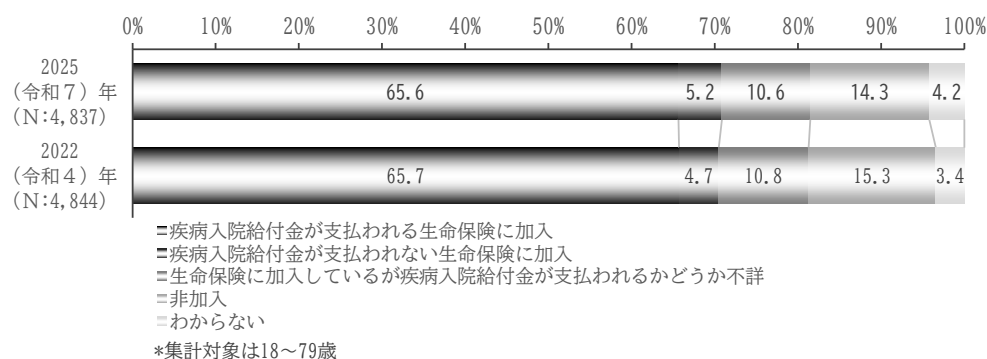
① 疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（全生保）

民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）、県民共済・生協等を取り扱っている生命保険（個人年金保険や生命共済を含む）のうち、疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率は、65.6%となっている。

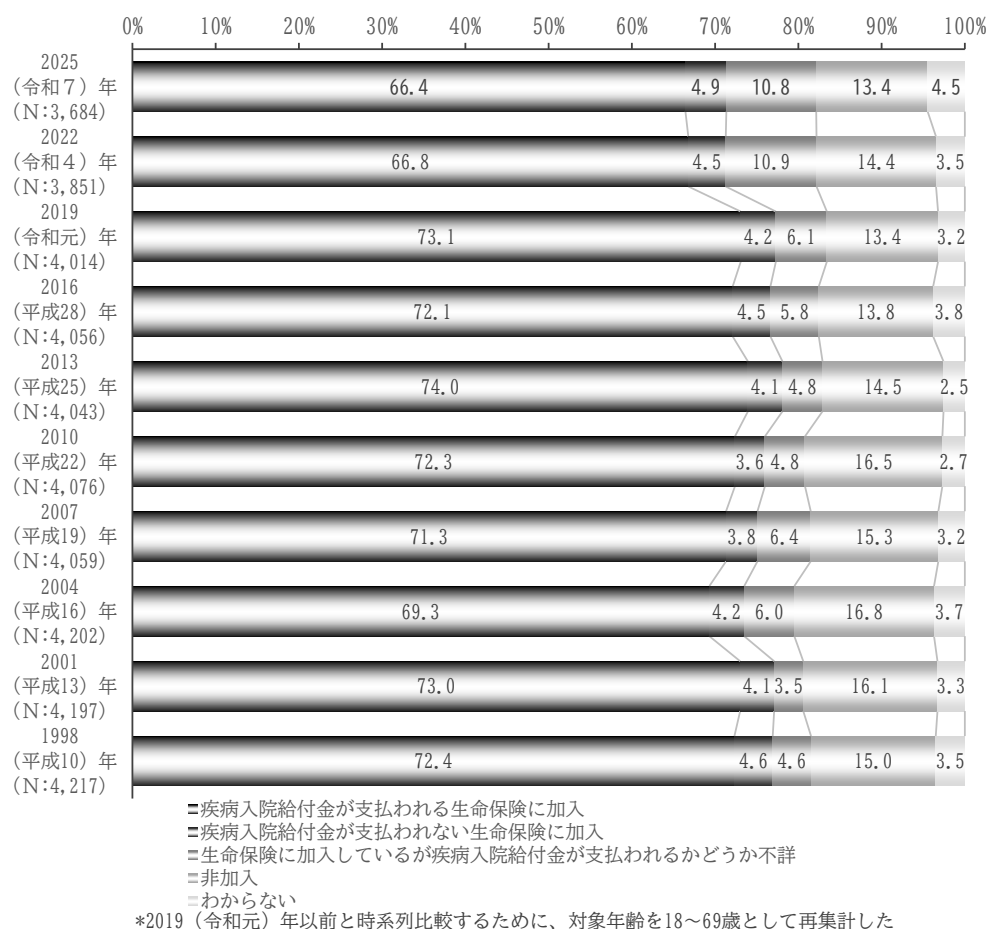
前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－32）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

＜図表Ⅱ-32＞ 疾病入院給付金の有無（全生保）



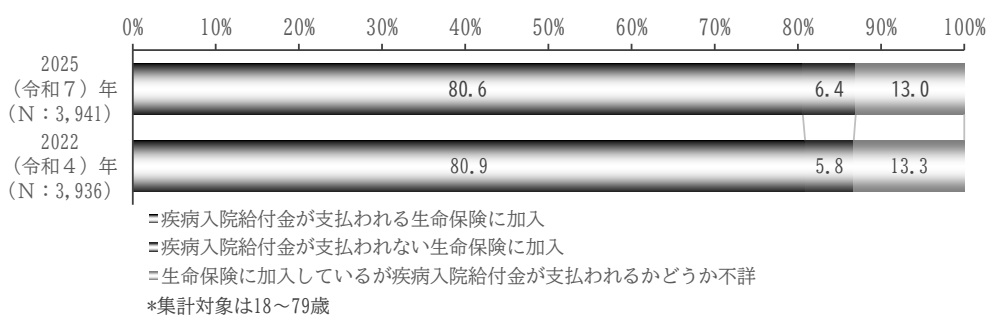
【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



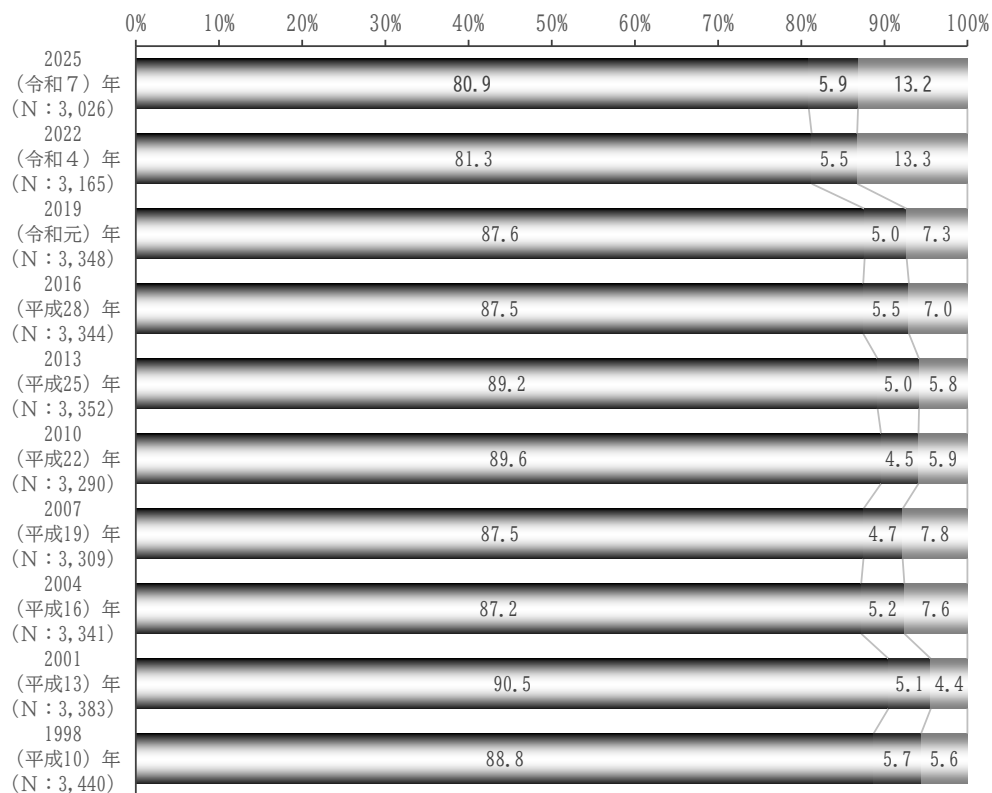
次に、生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、80.6%となっている。（図表Ⅱ－33）

<図表 Ⅱ-33> 疾病入院給付金の有無（全生保）

[集計ベース：生命保険、個人年金保険加入者]



【参考】時系列でもても、一貫した傾向はみられない。



■疾病入院給付金が支払われる生命保険に加入

■疾病入院給付金が支払われない生命保険に加入

■生命保険に加入しているが疾病入院給付金が支払われるかどうか不詳

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した。

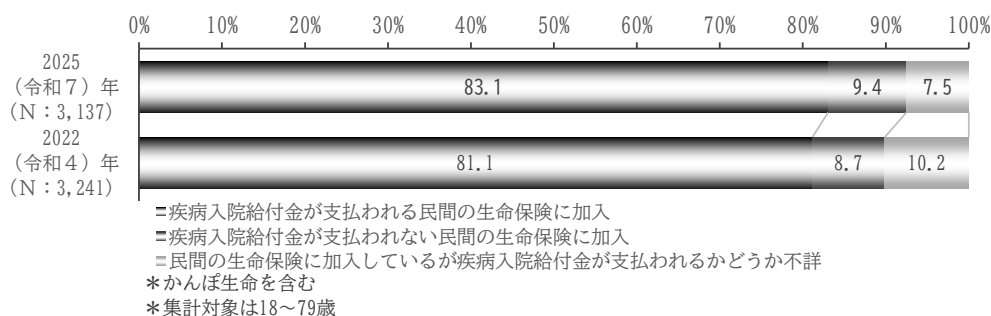
②疾病入院給付金の支払われる生命保険加入率（民保）

民間の生命保険および個人年金保険加入者に限定して疾病入院給付金が支払われる生命保険の加入率をみると、83.1%となっている。

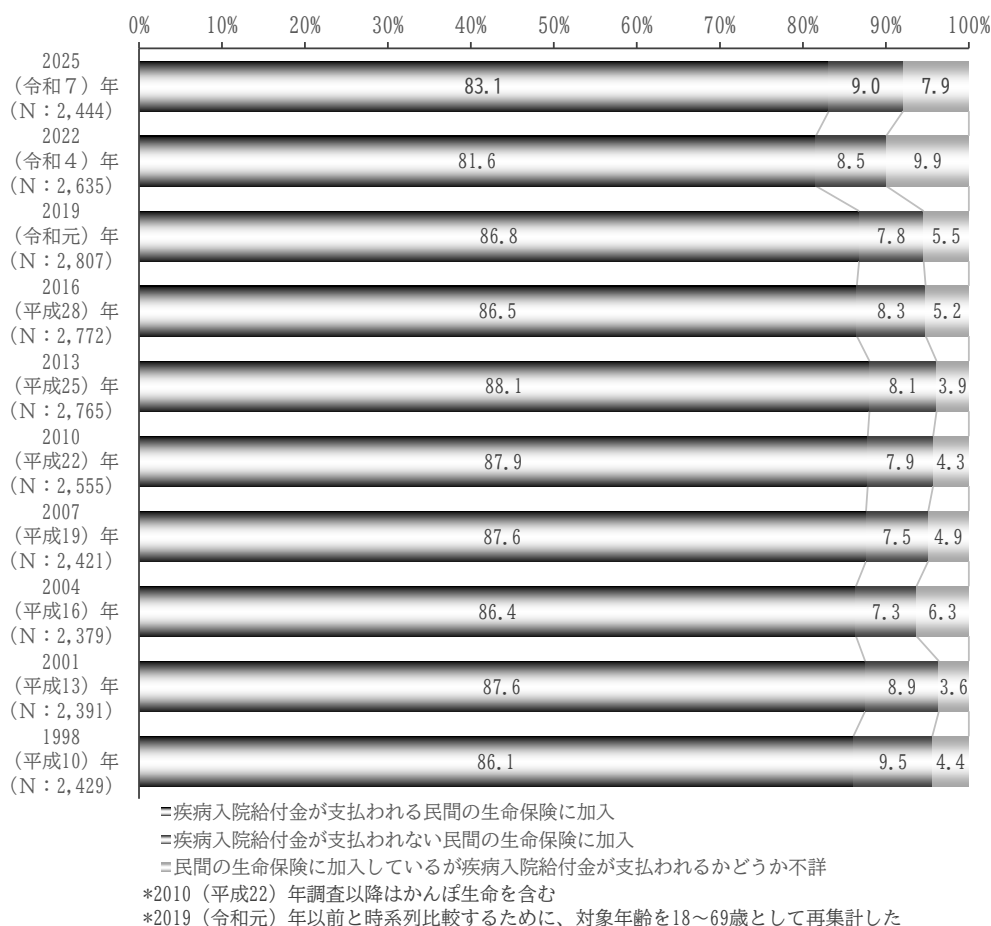
前回と比較すると、「疾病入院給付金が支払われる民間の生命保険に加入」が 2.0 ポイント増加している。（図表Ⅱ-34）

<図表Ⅱ-34> 疾病入院給付金の有無（民保）

〔集計ベース：民保の生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】時系列でも、一貫した傾向はみられない。



③ガン保険・ガン特約の加入率

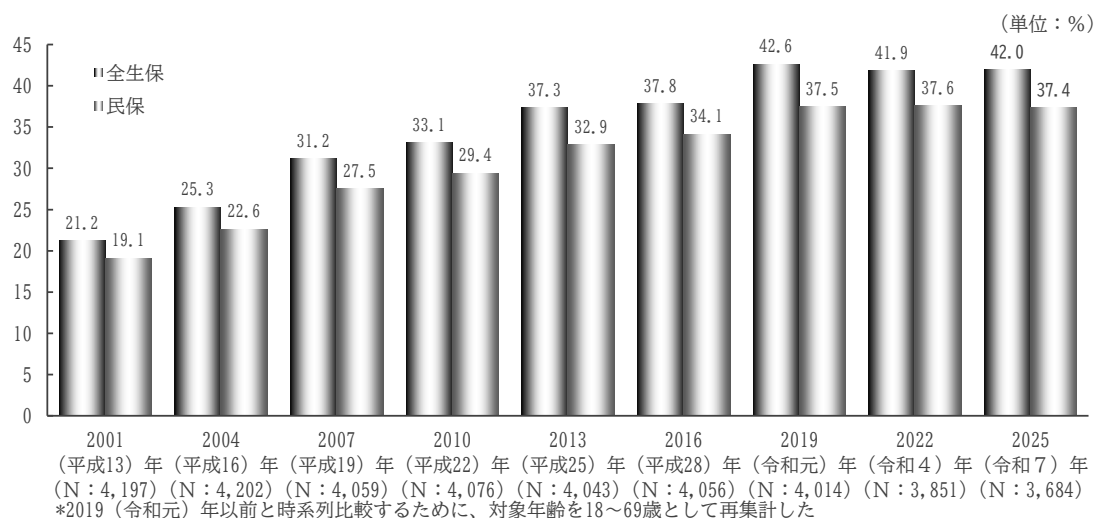
民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等で取り扱っているガン保険・ガン特約の加入率は、39.9%となっている。また、民保は35.4%となっている。（図表Ⅱ－35）

<図表Ⅱ-35> ガン保険・ガン特約の加入率

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
2025 (令和7)年	4,837	39.9	35.4
2022 (令和4)年	4,844	39.1	35.2

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、ガン保険・ガン特約の加入率は、全生保が男性で38.7%、女性で40.8%となっている。民保は男女とも35.4%となっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男女とも40～50歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－36）
なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-36> ガン保険・ガン特約の加入率〔性・年齢別〕

	(単位：％)		
	N	全生保	民保
男 性	2,101	38.7	35.4
20歳代	181	18.2▲	16.0▲
30歳代	225	40.9	36.9
40歳代	363	45.2	40.2
50歳代	406	50.2	47.0
60歳代	404	41.3	37.6
70歳代	485	30.7▲	28.7▲
女 性	2,736	40.8	35.4
20歳代	165	20.0▲	17.6▲
30歳代	282	43.6	39.7
40歳代	438	47.3	42.7
50歳代	576	48.1	41.7
60歳代	579	41.6	34.9
70歳代	668	34.9▲	29.6▲

④特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等で行っている特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、30.4%となっている。また、民保は27.0%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－37）

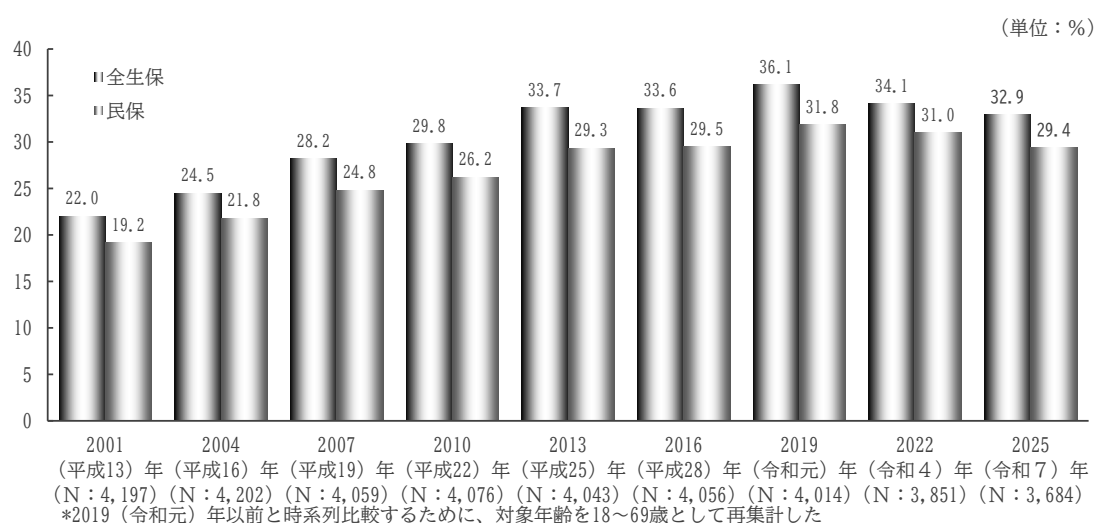
<図表Ⅱ-37> 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率

(単位：%)

	N	全生保	民保
2025 (令和7)年	4,837	30.4	27.0
2022 (令和4)年	4,844	30.9	28.0

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率は、全生保が男性で31.2%、女性で29.9%となっている。民保は男性で27.9%、女性で26.4%となっている。

性・年齢別にみると、全生保は男性50歳代、女性30～50歳代で、民保は男性30歳代と50歳代、女性30～50歳代で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－38）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-38> 特定疾病保障保険・特定疾病保障特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	全生保	民保
男 性	2,101	31.2	27.9
20 歳 代	181	15.5▲	12.7▲
30 歳 代	225	36.0	34.2
40 歳 代	363	33.9	29.8
50 歳 代	406	43.1	39.9
60 歳 代	404	34.4	30.2
70 歳 代	485	21.4▲	18.6▲
女 性	2,736	29.9	26.4
20 歳 代	165	17.6▲	15.2▲
30 歳 代	282	35.8	33.0
40 歳 代	438	34.5	31.3
50 歳 代	576	35.4	31.4
60 歳 代	579	30.4	25.7
70 歳 代	668	23.2▲	20.2▲

⑤先進医療保険・先進医療特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等では取り扱っている先進医療保険・先進医療特約の加入率は、28.4%となっている。また、民保は24.9%となっている。

前回と比較すると、「全生保」が2.8ポイント、「民保」が2.2ポイント、それぞれ増加している。（図表Ⅱ－39）

<図表Ⅱ-39> 先進医療保険・先進医療特約の加入率

（単位：％）

	N	全生保	民保
2025 （令和7）年	4,837	28.4	24.9
2022 （令和4）年	4,844	25.6	22.7

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、先進医療保険・先進医療特約の加入率は、全生保が男性で28.0%、女性で28.8%となっている。民保は男性で25.0%、女性で24.8%となっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男性は50～60歳代で、女性は30～40歳代で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－40）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-40> 先進医療保険・先進医療特約の加入率〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	全生保	民保
男 性	2,101	28.0	25.0
20 歳代	181	13.3▲	12.2▲
30 歳代	225	30.2	28.9
40 歳代	363	31.4	27.8
50 歳代	406	35.7	32.3
60 歳代	404	33.4	29.7
70 歳代	485	20.2▲	17.1▲
女 性	2,736	28.8	24.8
20 歳代	165	14.5▲	13.3▲
30 歳代	282	34.8	31.2
40 歳代	438	34.2	30.8
50 歳代	576	31.8	27.3
60 歳代	579	32.6	26.4
70 歳代	668	21.3▲	18.3▲

*民保はかんぽ生命を含む

⑥認知症保険・認知症特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）で取り扱っている認知症保険・認知症特約の加入率は、1.9%となっている。また、民保は1.8%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－41）

<図表Ⅱ-41> 認知症保険・認知症特約の加入率

	(単位：%)		
	N	全生保	民保
2025 (令和7)年	4,837	1.9	1.8
2022 (令和4)年	4,844	1.9	1.9

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、認知症保険・認知症特約の加入率は、全生保が男性で1.6%、女性で2.1%となっている。民保は男性で1.5%、女性で2.0%となっている。

性・年齢別にみても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－42）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-42> 認知症保険・認知症特約の加入率〔性・年齢別〕

	(単位：%)		
	N	全生保	民保
男 性	2,101	1.6	1.5
20 歳 代	181	0.6	0.6
30 歳 代	225	0.4	0.4
40 歳 代	363	1.4	1.4
50 歳 代	406	2.0	2.0
60 歳 代	404	1.7	1.7
70 歳 代	485	2.3	2.1
女 性	2,736	2.1	2.0
20 歳 代	165	0.6	0.6
30 歳 代	282	1.4	1.1
40 歳 代	438	1.1	1.1
50 歳 代	576	2.8	2.8
60 歳 代	579	2.4	2.4
70 歳 代	668	2.5	2.2

*民保はかんぽ生命を含む

⑦生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

民間の生命保険会社やＪＡ（農協）、県民共済・生協等で取り扱っている生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、5.1%となっている。また、民保は4.9%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－43）

<図表Ⅱ-43> 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率

(単位：%)

	N	全生保	民保
2025 (令和7)年	4,837	5.1	4.9
2022 (令和4)年	4,844	5.3	5.2

*民保はかんぽ生命を含む

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でも、一貫した傾向はみられない。

(単位：%)

	N	全生保	民保
2025 (令和7)年	3,684	6.4	6.1
2022 (令和4)年	3,851	6.3	6.2
2019 (令和元)年	4,014	9.1	8.5

*民保はかんぽ生命を含む

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性別にみると、生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率は、全生保、民保ともに男性が女性より高くなっている。

性・年齢別にみると、全生保、民保ともに男性20歳代と40歳代、女性30歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－44）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-44> 生活障害・就業不能保障保険、生活障害・就業不能保障特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	全生保	民保
男 性	2,101	6.9	6.5
20歳代	181	11.0	11.0
30歳代	225	9.3	8.9
40歳代	363	9.9	9.4
50歳代	406	9.1	8.4
60歳代	404	5.9	5.7
70歳代	485	1.4▲	1.2▲
女 性	2,736	3.7	3.6
20歳代	165	3.0	3.0
30歳代	282	8.2	7.1
40歳代	438	5.3	5.3
50歳代	576	4.3	4.3
60歳代	579	3.5	3.5
70歳代	668	0.9▲	0.9▲

*民保はかんぽ生命を含む

⑧健康増進型保険・健康増進型特約の加入率

民間の生命保険会社で取り扱っている健康増進型保険・健康増進型特約の加入率は、1.2%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－45）

<図表Ⅱ-45> 健康増進型保険・健康増進型特約の加入率

(単位：%)

	N	民保
2025 (令和7)年	4,837	1.2
2022 (令和4)年	4,844	1.2

*民保はかんぽ生命を含む

性別にみると、健康増進型保険・健康増進型特約の加入率は、男性で1.4%、女性で1.0%となっている。

性・年齢別にみると、男性20歳代で高くなっている。（図表Ⅱ－46）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-46> 健康増進型保険・健康増進型特約の加入率〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	民保
男 性	2,101	1.4
20歳代	181	3.9
30歳代	225	0.9
40歳代	363	1.4
50歳代	406	2.0
60歳代	404	2.0
70歳代	485	0.0▲
女 性	2,736	1.0
20歳代	165	1.8
30歳代	282	0.7
40歳代	438	1.1
50歳代	576	1.6
60歳代	579	0.7
70歳代	668	0.6

*民保はかんぽ生命を含む

(2) 疾病入院給付金

① 疾病入院給付金日額

(a) 疾病入院給付金日額（全生保）

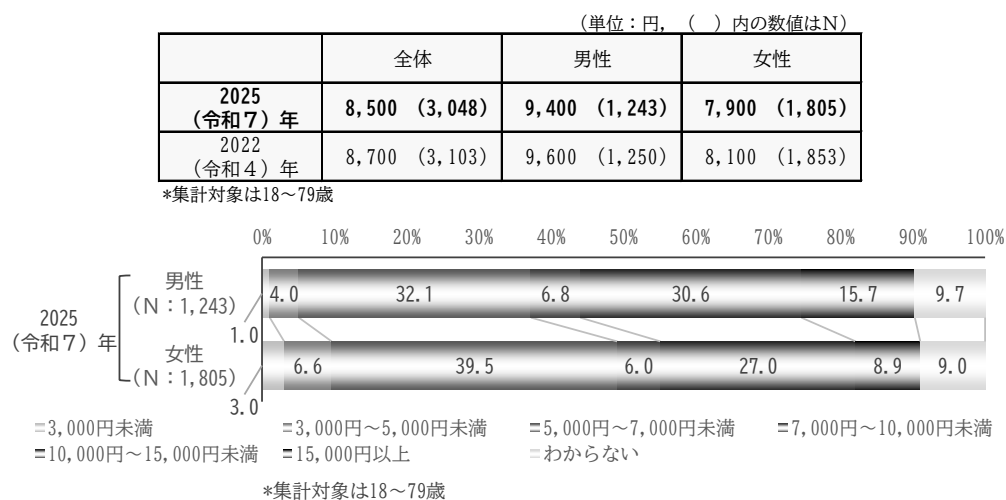
「疾病入院給付金の支払われる生命保険に加入」とした人の疾病入院給付金日額の平均は、全体で8,500円、男性で9,400円、女性で7,900円となっている。

金額の分布をみると、男女とも「5,000円～7,000円未満」が最も多く、3割を超えている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－47）

＜図表Ⅱ-47＞ 疾病入院給付金日額（全生保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】時系列でも、一貫した傾向はみられない。

（単位：円，（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2025 (令和7) 年	8,800 (2,341)	9,700 (958)	8,200 (1,383)
2022 (令和4) 年	8,900 (2,501)	9,900 (1,007)	8,300 (1,494)
2019 (令和元) 年	9,800 (2,934)	10,900 (1,226)	9,100 (1,708)
2016 (平成28) 年	9,900 (2,925)	10,800 (1,213)	9,200 (1,712)
2013 (平成25) 年	9,800 (2,990)	10,900 (1,275)	9,000 (1,715)
2010 (平成22) 年	10,000 (2,948)	11,000 (1,305)	9,200 (1,643)
2007 (平成19) 年	10,200 (2,896)	11,800 (1,312)	9,000 (1,584)
2004 (平成16) 年	9,200 (2,913)	10,500 (1,299)	8,200 (1,614)
2001 (平成13) 年	8,800 (3,062)	10,100 (1,432)	7,800 (1,630)
1998 (平成10) 年	8,100 (3,053)	9,500 (1,453)	6,900 (1,600)

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性・年齢別にみると、男性 40 歳代（10,300 円）、女性 50 歳代（8,700 円）で最も高くなっている。

分布をみると、男性では 20 歳代で「3,000 円未満」と「3,000～5,000 円未満」が、50 歳代で「10,000～15,000 円未満」が、60 歳代で「7,000～10,000 円未満」が、70 歳代で「5,000～7,000 円未満」が高くなっている。一方、女性では 50 歳代で「15,000 円以上」が、60～70 歳代で「3,000 円未満」が高く、70 歳代では「3,000～5,000 円未満」も高くなっている。（図表Ⅱ－48）

なお、その他の属性別データについては巻末の「付属統計資料」に掲載。

<図表Ⅱ-48> 疾病入院給付金日額（全生保）〔性・年齢別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕

		(単位：%)							平均 (円)
	N	3,000円 未満	3,000円～ 5,000円 未満	5,000円～ 7,000円 未満	7,000円～ 10,000円 未満	10,000円～ 15,000円 未満	15,000円 以上	わからない	
男 性	1,243	1.0	4.0	32.1	6.8	30.6	15.7	9.7	9,400
20 歳 代	68	4.4	11.8	30.9	8.8	32.4	7.4	4.4	7,600
30 歳 代	115	0.9	3.5	36.5	4.3	32.2	11.3	11.3	9,100
40 歳 代	216	0.9	2.8	27.8	4.6	34.7	19.9	9.3	10,300
50 歳 代	279	0.0	1.8▲	26.2▲	6.5	37.3	15.8	12.5	9,800
60 歳 代	271	1.5	3.7	24.7▲	9.6	32.1	18.8	9.6	10,100
70 歳 代	285	0.7	6.0	46.3	7.0	17.9▲	13.7	8.4	8,400
女 性	1,805	3.0	6.6	39.5	6.0	27.0	8.9	9.0	7,900
20 歳 代	57	3.5	5.3	49.1	5.3	28.1	5.3	3.5	7,100
30 歳 代	180	1.7	4.4	42.8	4.4	32.2	7.8	6.7	7,900
40 歳 代	296	0.3▲	4.1	41.6	4.7	30.1	8.8	10.5	8,200
50 歳 代	423	1.2▲	3.8▲	37.4	6.9	27.0	12.8	11.1	8,700
60 歳 代	422	5.5	6.4	35.3▲	6.9	27.7	8.5	9.7	8,100
70 歳 代	422	5.0	12.3	41.5	5.7	22.0▲	6.6	6.9	7,000

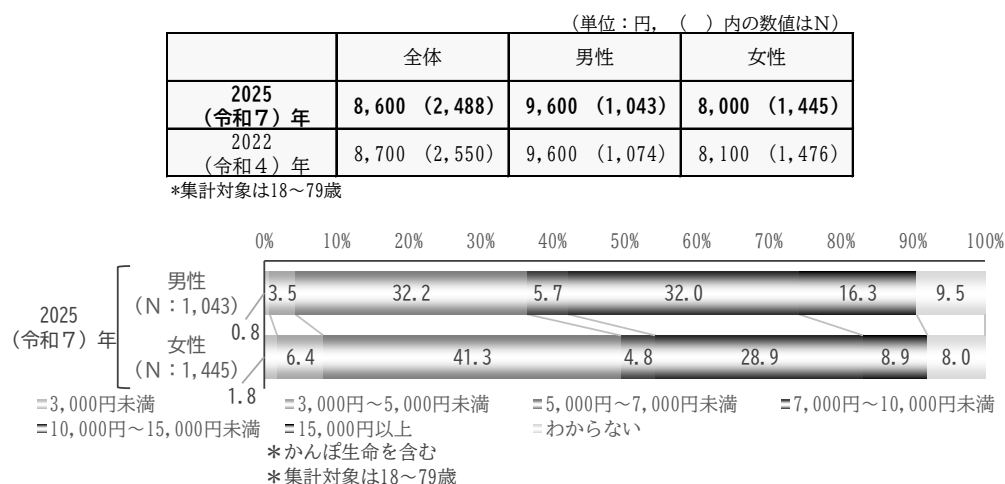
(b) 疾病入院給付金日額（民保）

疾病入院給付金の支払われる民間の生命保険加入者の疾病入院給付金日額の平均は、全体で 8,600 円、男性で 9,600 円、女性で 8,000 円となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－49）

<図表Ⅱ-49> 疾病入院給付金日額（民保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院給付金が支払われる民保の生命保険・個人年金保険加入者〕



【参考】時系列でも、一貫した傾向はみられない。

（単位：円、（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2025 （令和7）年	8,900 （1,930）	9,800 （811）	8,200 （1,119）
2022 （令和4）年	8,900 （2,079）	9,900 （874）	8,300 （1,205）
2019 （令和元）年	9,700 （2,436）	10,700 （1,039）	8,900 （1,397）
2016 （平成28）年	9,600 （2,399）	10,700 （1,015）	8,900 （1,384）
2013 （平成25）年	9,500 （2,435）	10,500 （1,076）	8,800 （1,359）
2010 （平成22）年	9,600 （2,245）	10,700 （1,050）	8,600 （1,195）
2007 （平成19）年	9,700 （2,120）	11,000 （1,050）	8,500 （1,070）
2004 （平成16）年	8,400 （2,056）	9,500 （1,001）	7,300 （1,055）
2001 （平成13）年	7,900 （2,094）	9,000 （1,076）	6,800 （1,018）
1998 （平成10）年	7,200 （2,092）	8,100 （1,126）	6,200 （966）

*2010（平成22）年調査以降はかんぽ生命を含む

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

②疾病入院給付金一時金額

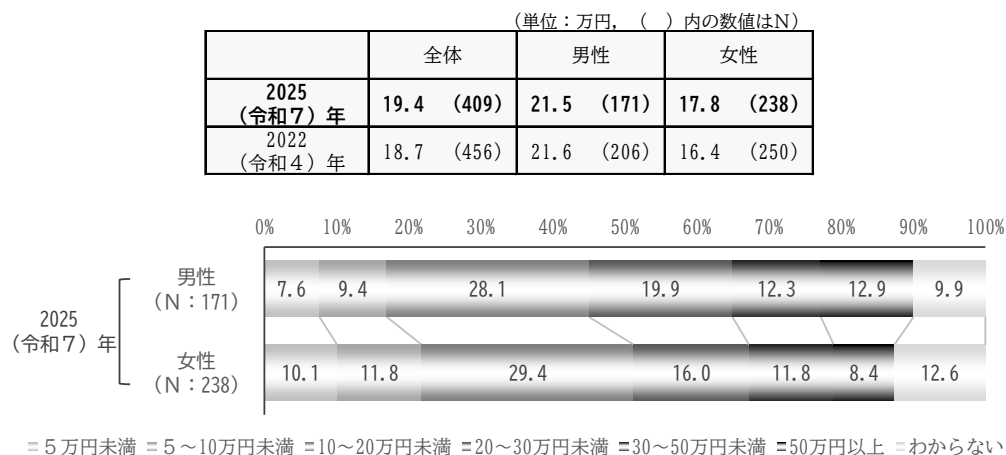
(a) 疾病入院給付金一時金額（全生保）

「疾病入院給付金一時金の支払われる生命保険に加入」とした人の疾病入院給付金一時金額の平均は、全体で19.4万円、男性で21.5万円、女性で17.8万円となっている。

金額の分布をみると、男性、女性いずれも「10～20万円未満」が最も多い。（図表Ⅱ－50）

<図表Ⅱ-50> 疾病入院給付金一時金額（全生保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院一時金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕



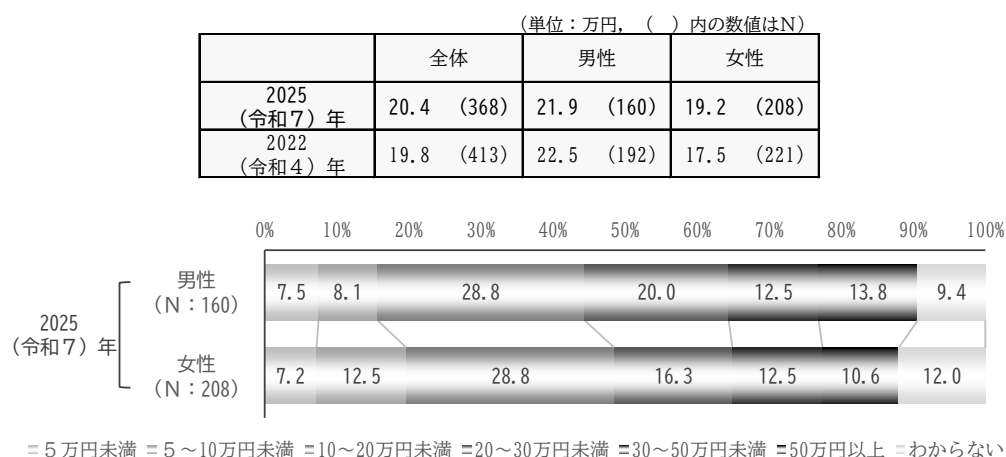
(b) 疾病入院給付金一時金額（民保）

疾病入院給付金一時金の支払われる民間の生命保険加入者の疾病入院給付金一時金額の平均は、全体で20.4万円、男性で21.9万円、女性で19.2万円となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－51）

<図表Ⅱ-51> 疾病入院給付金一時金額（民保）〔性別〕

〔集計ベース：疾病入院一時金が支払われる生命保険・個人年金保険加入者〕



(3) 疾病入院給付金の必要額

ケガや病気で入院時の医療費等への備えとして必要と考える商品のタイプを捉えるために、以下のよう尋ねた。

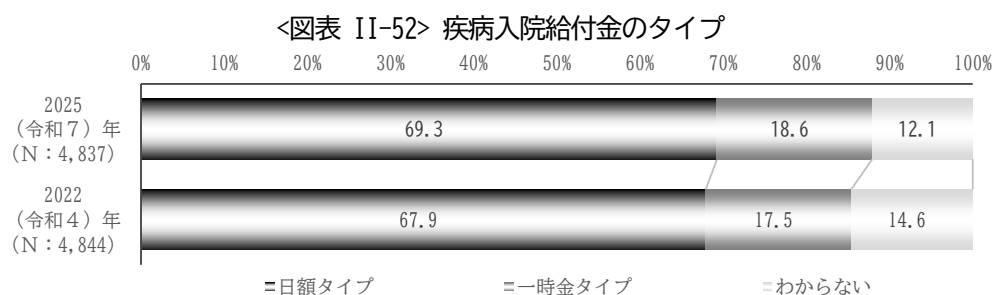
あなたご自身がケガや病気で入院された場合に、医療費等への備えとして、(1)どのような商品に、(2)いくらぐらい入院給付金が必要とお考えですか。商品のタイプをいずれか1つお選びの上、必要な金額をお答えください。

- (1) 商品タイプ
 (ア) 1日あたり一定額の入院給付金が受け取れる商品 (=日額タイプ)
 (イ) 1回の入院でまとめて給付金が受け取れる商品 (=一時金タイプ)
 わからない
 (2) 必要な入院給付金額
 1日約□□□00円の入院給付金が必要

① 疾病入院給付金のタイプ

ケガや病気で入院時の医療費等への備えとして必要と考える疾病入院給付金のタイプを尋ねたところ、「日額タイプ」は69.3%、「一時金タイプ」は18.6%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。(図表Ⅱ-52)



性別にみると、「日額タイプ」が男性で69.0%、女性で69.4%となっている。「一時金タイプ」は男性で18.9%、女性で18.5%となっている。

性・年齢別にみると、「日額タイプ」は男女とも60歳代で高く、「一時金タイプ」は男性20～30歳代、女性40歳代で高くなっている。(図表Ⅱ-53)

<図表 Ⅱ-53> 疾病入院給付金のタイプ〔性・年齢別〕

(単位: %)

	N	日額タイプ	一時金タイプ	わからない
男 性	2,101	69.0	18.9	12.1
20 歳 代	181	53.0▲	30.9	16.0
30 歳 代	225	63.1▲	25.3	11.6
40 歳 代	363	68.6	21.5	9.9
50 歳 代	406	72.9	18.2	8.9▲
60 歳 代	404	76.5	14.1▲	9.4
70 歳 代	485	69.5	13.8▲	16.7
女 性	2,736	69.4	18.5	12.1
20 歳 代	165	60.0▲	23.0	17.0
30 歳 代	282	70.2	17.7	12.1
40 歳 代	438	68.3	23.1	8.7▲
50 歳 代	576	71.4	17.7	10.9
60 歳 代	579	73.7	17.6	8.6▲
70 歳 代	668	68.1	15.7▲	16.2

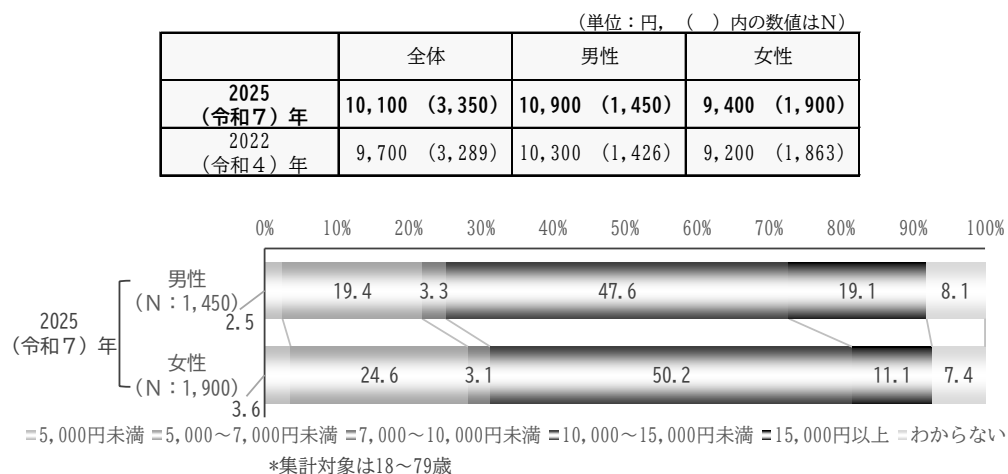
②疾病入院給付金日額

ケガや病気による入院時の医療費等への備えとして必要と考える疾病入院給付金日額を尋ねたところ、平均額は全体で10,100円、男性で10,900円、女性で9,400円となっている。

金額の分布をみると、「10,000～15,000円未満」の割合は、男性で47.6%、女性で50.2%と最も高くなっている。

加入している疾病入院給付金日額（86ページ）と比較すると、男性、女性いずれも1,500円の不足となっている。（図表Ⅱ－54）

<図表Ⅱ-54> 疾病入院給付金日額の必要額〔性別〕



【参考】時系列でも、一貫した傾向はみられない。

（単位：円，（ ）内の数値はN）

	全体	男性	女性
2025 （令和7）年	10,400 （2,558）	11,500 （1,113）	9,600 （1,445）
2022 （令和4）年	9,900 （2,632）	10,600 （1,129）	9,300 （1,503）
2019 （令和元）年	11,000 （4,014）	12,400 （1,765）	10,000 （2,249）
2016 （平成28）年	10,900 （4,056）	11,700 （1,746）	10,300 （2,310）
2013 （平成25）年	11,000 （4,043）	11,700 （1,769）	10,500 （2,274）
2010 （平成22）年	11,400 （4,076）	12,300 （1,848）	10,600 （2,228）
2007 （平成19）年	11,800 （4,059）	12,600 （1,862）	11,200 （2,197）

*2013（平成25）年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性・年齢別にみると、男性では30歳代で13,500円、女性では20歳代で10,400円と高くなっている。

分布をみると、男性では30歳代で「15,000円以上」が、70歳代で「5,000～7,000円未満」が高くなっている。また、女性では60歳代で「10,000～15,000円未満」が、70歳代で「5,000円未満」「5,000～7,000円未満」が高くなっている。(図表Ⅱ－55)

<図表Ⅱ-55> 疾病入院給付金日額の必要額〔性・年齢別〕

(単位：％)								
	N	5,000円 未満	5,000～ 7,000円 未満	7,000～ 10,000円 未満	10,000～ 15,000円 未満	15,000円 以上	わからない	平均 (円)
男 性	1,450	2.5	19.4	3.3	47.6	19.1	8.1	10,900
20 歳 代	96	5.2	14.6	1.0	44.8	19.8	14.6	12,600
30 歳 代	142	2.1	14.8	2.8	38.7▲	27.5	14.1	13,500
40 歳 代	249	2.0	14.1▲	4.0	52.2	21.7	6.0	11,500
50 歳 代	296	1.0	19.6	3.4	49.0	20.6	6.4	11,300
60 歳 代	309	1.9	19.4	4.2	48.5	21.7	4.2▲	10,700
70 歳 代	337	3.3	26.1	3.0	47.8	10.4▲	9.5	9,100
女 性	1,900	3.6	24.6	3.1	50.2	11.1	7.4	9,400
20 歳 代	99	4.0	23.2	4.0	31.3▲	15.2	22.2	10,400
30 歳 代	198	3.0	19.2	3.5	53.5	11.6	9.1	10,200
40 歳 代	299	3.3	24.1	2.7	48.2	11.4	10.4	9,400
50 歳 代	411	1.5▲	22.9	3.6	54.3	12.7	5.1▲	9,700
60 歳 代	427	4.0	23.7	3.0	56.4	9.1	3.7▲	9,100
70 歳 代	455	5.7	30.1	2.6	45.7▲	9.2	6.6	8,800

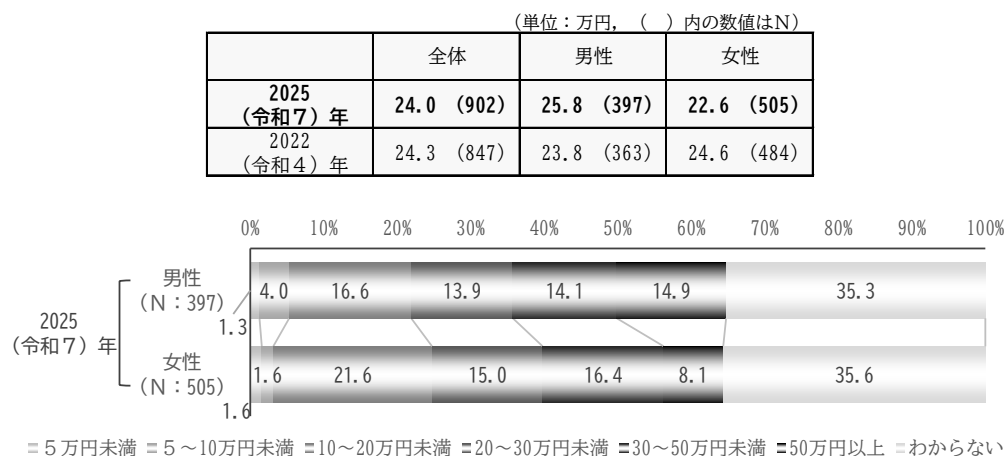
③疾病入院給付金一時金額

ケガや病気による入院時の医療費等への備えとして必要と考える疾病入院給付金一時金額を尋ねたところ、平均額は全体で 24.0 万円、男性で 25.8 万円、女性で 22.6 万円となっている。

金額の分布をみると、「10～20 万円未満」の割合は、男性で 16.6%、女性で 21.6%と最も高くなっている。

加入している疾病入院給付金一時金額（89 ページ）と比較すると、男性で 4.3 万円、女性で 4.8 万円の不足となっている。（図表Ⅱ－56）

<図表Ⅱ-56> 疾病入院給付金一時金の必要額〔性別〕



(4) 疾病入院給付金の必要額に対する加入金額の割合

① 疾病入院給付金日額

前項でみた疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額の割合をみると、84.2%と8割を超える。性別にみると、男性は86.2%、女性は84.0%となっている。（図表Ⅱ－57）

<図表Ⅱ-57> 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金日額（全生保）の割合〔性別〕

(単位：円, () 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2025 (令和7) 年	10,100 (3,350)	8,500 (3,048)	84.2	10,900 (1,450)	9,400 (1,243)	86.2	9,400 (1,900)	7,900 (1,805)	84.0
2022 (令和4) 年	9,700 (3,289)	8,700 (3,103)	89.7	10,300 (1,426)	9,600 (1,250)	93.2	9,200 (1,863)	8,100 (1,853)	88.0

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。

(単位：円，() 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2025 (令和7) 年	10,400 (2,558)	8,800 (2,341)	84.6	11,500 (1,113)	9,700 (958)	84.3	9,600 (1,445)	8,200 (1,383)	85.4
2022 (令和4) 年	9,900 (2,632)	8,900 (2,501)	89.9	10,600 (1,129)	9,900 (1,007)	93.4	9,300 (1,503)	8,300 (1,494)	89.2
2019 (令和元) 年	11,000 (4,014)	9,800 (2,934)	89.1	12,400 (1,765)	10,900 (1,226)	87.9	10,000 (2,249)	9,100 (1,708)	91.0
2016 (平成28) 年	10,900 (4,056)	9,900 (2,925)	90.8	11,700 (1,746)	10,800 (1,213)	92.3	10,300 (2,310)	9,200 (1,712)	89.3
2013 (平成25) 年	11,000 (4,043)	9,800 (2,990)	89.1	11,700 (1,769)	10,900 (1,275)	93.2	10,500 (2,274)	9,000 (1,715)	85.7
2010 (平成22) 年	11,400 (4,076)	10,000 (2,948)	87.7	12,300 (1,848)	11,000 (1,305)	89.4	10,600 (2,228)	9,200 (1,643)	86.8
2007 (平成19) 年	11,800 (4,059)	10,200 (2,896)	86.4	12,600 (1,862)	11,800 (1,312)	93.7	11,200 (2,197)	9,000 (1,584)	80.4

*平均加入金額を平均必要額で計算

*2019 (令和元) 年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

*2013 (平成25) 年調査までは「必要額」ではなく「希望する額」として質問

②疾病入院給付金一時金額

前項でみた疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金一時金額の割合をみると、85.0%と8割を超えている。性別にみると、男性は84.9%、女性は85.0%となっている。(図表Ⅱ－58)

<図表 Ⅱ-58> 疾病入院給付金の必要額に対する疾病入院給付金一時金額（全生保）の割合〔性別〕

(単位：万円，() 内の数値はN)

	全体			男性			女性		
	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *	必要額	加入金額	必要額に対する加入金額の割合 (%) *
2025 (令和7) 年	24.0 (902)	19.4 (409)	80.8	25.8 (397)	21.5 (171)	83.3	22.6 (505)	17.8 (238)	78.8
2022 (令和4) 年	24.3 (847)	18.7 (456)	77.0	23.8 (363)	21.6 (206)	90.8	24.6 (484)	16.4 (250)	66.7

*平均加入金額を平均必要額で除して計算

6. 医療保障に対する充足感

前述「4. 医療保障に対する私的準備状況」に公的保障や企業保障を加えた、医療保障に対する充足感を捉えるために、以下のように尋ねた。

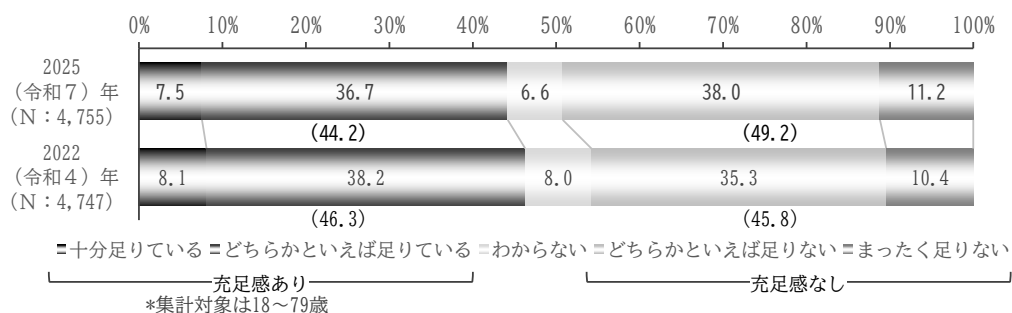
現在の備えと公的医療保険や企業保障などをあわせると、医療費に対する準備は十分だとお考えですか。

- (ア) 十分足りている
- (イ) どちらかといえば足りている
- (ウ) どちらかといえば足りない
- (エ) まったく足りない
- わからない

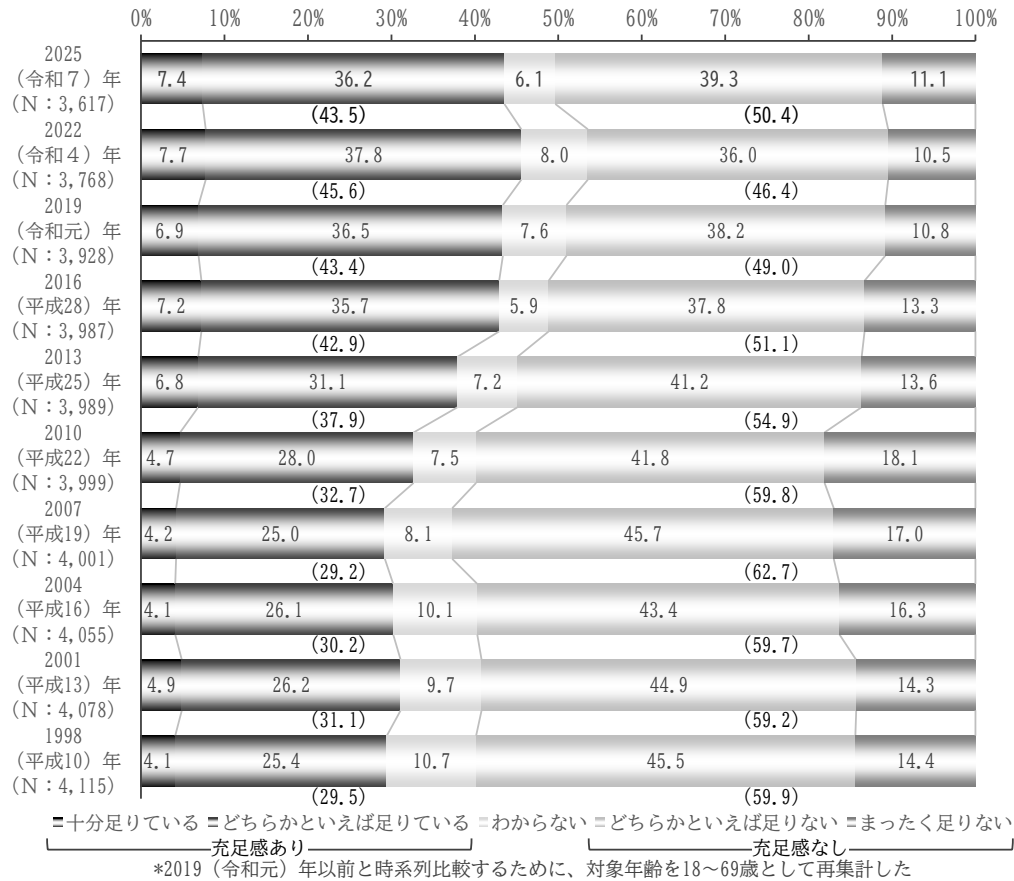
その結果、「充足感あり」（“十分足りている”と“どちらかといえば足りている”と回答した人の合計）は44.2%、「充足感なし」（“どちらかといえば足りない”と“まったく足りない”と回答した人の合計）は49.2%と、5割近くが不足感を感じている。

前回と比較すると、「充足感なし」が3.4ポイント増加し、「充足感あり」が2.1ポイント減少している。（図表Ⅱ－59）

<図表 Ⅱ-59> 医療保障に対する充足感



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性別にみると、「充足感あり」は男性で高くなっている。

性・年齢別にみると、「充足感あり」は男性60歳代で、「充足感なし」は男女とも50歳代で高くなっている。(図表II-60)

<図表 II-60> 医療保障に対する充足感〔性・年齢別〕

(単位：%)								
	N	十分足りている	どちらかといえば足りている	充足感あり	わからない	充足感なし	どちらかといえば足りない	まったく足りない
男 性	2,064	9.2	37.0	46.2	6.1	47.8	36.4	11.4
20 歳代	171	9.4	31.6	40.9	10.5	48.5	38.0	10.5
30 歳代	223	6.7	37.2	43.9	7.6	48.4	37.2	11.2
40 歳代	358	11.2	37.4	48.6	5.6	45.8	34.6	11.2
50 歳代	402	8.5	33.3	41.8▲	5.7	52.5	42.0	10.4
60 歳代	402	8.7	42.8	51.5	4.0	44.5	35.6	9.0
70 歳代	478	9.8	37.7	47.5	5.2	47.3	33.1	14.2
女 性	2,691	6.3	36.4	42.7	7.0	50.3	39.2	11.1
20 歳代	151	7.3	26.5▲	33.8▲	10.6	55.6	40.4	15.2
30 歳代	277	7.2	35.4	42.6	6.9	50.5	41.2	9.4
40 歳代	435	6.0	37.0	43.0	4.6▲	52.4	39.3	13.1
50 歳代	574	4.7	36.1	40.8	4.7▲	54.5	43.6	11.0
60 歳代	576	6.9	37.0	43.9	5.9	50.2	38.9	11.3
70 歳代	660	6.7	38.8	45.5	10.3	44.2▲	34.7▲	9.5

性・本人職業別にみると、「充足感あり」は男女とも公務員で、「充足感なし」は男女とも非正規社員で高くなっている。

性・本人年収別にみると、「充足感なし」は男性では「収入はない」と「300万円未満」の層で高くなっている。また、女性では「100万円未満」の層で高くなっている。(図表Ⅱ－61)

<図表Ⅱ-61> 医療保障に対する充足感〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

(単位：％)

（単位：％）

		N				わからない	充足感なし	どちらかといえ ば足りない	まったく足 りない
			十分足りて いる	どちらかとい えば足り ている	充足感あり				
男	性	2,064	9.2	37.0	46.2	6.1	47.8	36.4	11.4
本人 職業	自 営 者	307	11.7	37.1	48.9	4.6	46.6	35.8	10.7
	農 林 漁 業	43	7.0	44.2	51.2	7.0	41.9	32.6	9.3
	商工サービス業	225	13.3	37.3	50.7	3.1▲	46.2	37.3	8.9
	常 雇 被 用 者	1,076	9.0	38.6	47.6	6.4	46.0	37.4	8.6▲
	公 務 員	104	15.4	51.9	67.3	6.7	26.0▲	25.0▲	1.0▲
	民間企業被用者	972	8.3	37.1	45.5	6.4	48.1	38.7	9.5▲
	小企業被用者	189	5.3	36.5	41.8	6.3	51.9	40.2	11.6
	中企業被用者	489	5.9▲	36.4	42.3	6.5	51.1	41.7	9.4
	大企業被用者	272	14.3	40.1	54.4	5.5	40.1▲	32.4	7.7▲
	非 正 規 社 員	164	4.3▲	32.9	37.2▲	7.3	55.5	41.5	14.0
	無 職	440	9.3	35.5	44.8	4.8	50.5	33.9	16.6
本人 年 収	収 入 は な い	85	7.1	25.9▲	32.9▲	4.7	62.4	24.7▲	37.6
	300 万 円 未 満	617	6.2▲	31.3▲	37.4▲	6.2	56.4	41.0	15.4
	300～500万円未満	469	6.8▲	38.0	44.8	6.2	49.0	39.0	10.0
	500～700万円未満	334	12.0	41.0	53.0	3.3▲	43.7	37.4	6.3▲
	700～1,000万円未満	187	13.4	48.7	62.0	3.2	34.8▲	31.6	3.2▲
	1,000 万 円 以 上	89	25.8	49.4	75.3	3.4	21.3▲	20.2▲	1.1▲
女	性	2,691	6.3	36.4	42.7	7.0	50.3	39.2	11.1
本人 職業	自 営 者	190	6.3	37.4	43.7	5.8	50.5	37.4	13.2
	農 林 漁 業	25	4.0	48.0	52.0	8.0	40.0	28.0	12.0
	商工サービス業	141	7.8	33.3	41.1	6.4	52.5	38.3	14.2
	常 雇 被 用 者	662	9.8	35.5	45.3	6.0	48.6	39.0	9.7
	公 務 員	85	11.8	49.4	61.2	5.9	32.9▲	31.8	1.2▲
	民間企業被用者	577	9.5	33.4	43.0	6.1	51.0	40.0	10.9
	小企業被用者	135	6.7	37.8	44.4	5.9	49.6	36.3	13.3
	中企業被用者	276	10.1	31.2	41.3	7.2	51.4	39.9	11.6
	大企業被用者	135	11.1	32.6	43.7	4.4	51.9	44.4	7.4
	非 正 規 社 員	756	4.8▲	34.3	39.0▲	5.7	55.3	42.2	13.1
	無 職	1,014	5.1	38.9	44.0	8.5	47.5▲	37.6	10.0
本人 年 収	収 入 は な い	386	5.4	36.3	41.7	6.2	52.1	42.7	9.3
	100 万 円 未 満	604	3.5▲	35.3	38.7▲	7.1	54.1	41.4	12.7
	100～300万円未満	912	5.7	36.0	41.7	6.5	51.9	38.6	13.3
	300～500万円未満	298	10.4	37.2	47.7	5.4	47.0	37.9	9.1
	500 万 円 以 上	126	16.7	47.6	64.3	2.4▲	33.3▲	31.0	2.4▲

7. 医療保障に対する今後の準備意向

ここでは、医療保障に対する今後の準備意向を捉えるため、以下のように尋ねた。

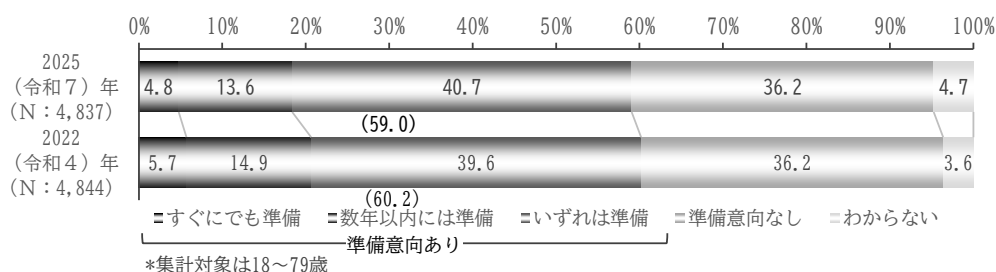
あなたは、ご自身がケガや病気で治療や入院されることになった場合に備えて、今後新たに経済的な準備をしたいとお考えですか。

- (ア) すぐにでも準備したい ……以下「すぐにでも準備」
 (イ) 数年以内には準備したい ……以下「数年以内には準備」
 (ウ) 特に時期は決めていないが、いずれは準備したい ……以下「いずれは準備」
 (エ) まったく準備するつもりはない ……以下「準備意向なし」
 わからない

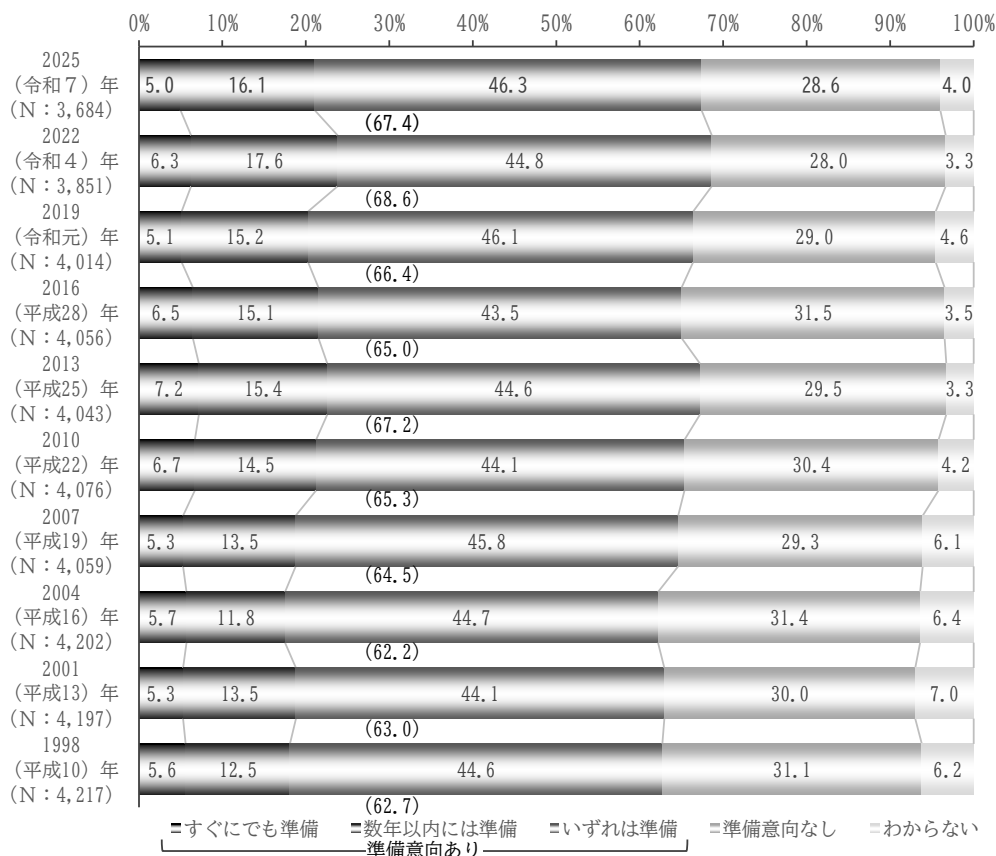
その結果、「準備意向あり」（上記の選択肢で（ア）～（ウ）のいずれかに回答した人の合計）は 59.0%、「準備意向なし」は 36.2%となっている。

前回と比較しても、大きな差異はみられない。（図表Ⅱ－62）

<図表Ⅱ-62> 医療保障に対する今後の準備意向



【参考】時系列でみても、一貫した傾向はみられない。



性・年齢別にみると、男女とも概ね若年齢層ほど「準備意向あり」が高くなっている。（図表Ⅱ－63）

<図表 Ⅱ-63> 医療保障に対する今後の準備意向〔性・年齢別〕

（単位：％）

	N	すぐにでも 準備	数年以内 には準備	いずれは 準備	準備意向 あり	準備意向 なし	わからない
男 性	2,101	5.2	13.5	39.8	58.5	37.2	4.3
20 歳代	181	3.3	21.5	56.4	81.2	14.4▲	4.4
30 歳代	225	4.9	20.0	46.2	71.1	24.0▲	4.9
40 歳代	363	7.4	18.5	47.4	73.3	24.0▲	2.8
50 歳代	406	4.9	15.8	50.0	70.7	26.1▲	3.2
60 歳代	404	4.2	9.7▲	33.2▲	47.0▲	49.8	3.2
70 歳代	485	5.8	5.2▲	21.2▲	32.2▲	61.0	6.8
女 性	2,736	4.5	13.7	41.3	59.5	35.5	5.0
20 歳代	165	3.0	17.6	58.8	79.4	15.8▲	4.8
30 歳代	282	6.0	22.7	42.9	71.6	25.9▲	2.5▲
40 歳代	438	3.9	18.3	57.3	79.5	17.8▲	2.7▲
50 歳代	576	5.4	14.8	50.5	70.7	24.7▲	4.7
60 歳代	579	5.5	11.6	34.5▲	51.6▲	42.5	5.9
70 歳代	668	2.8▲	6.1▲	23.5▲	32.5▲	60.2	7.3

性・本人職業別にみると、「準備意向あり」は男性では商工サービス業、民間企業被用者、非正規社員で、女性では民間企業被用者と非正規社員で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ－64）

<図表 Ⅱ-64> 医療保障に対する今後の準備意向〔性・本人職業別〕

（単位：％）

							(単位：%)	
		N	すぐにでも 準備	数年以内 には準備	いずれは 準備	準備意向 あり	準備意向 なし	わからない
男	性	2,101	5.2	13.5	39.8	58.5	37.2	4.3
本人職業	自 営 者	310	6.5	15.2	41.9	63.5	34.2	2.3
	農 林 漁 業	44	6.8	6.8	43.2	56.8	34.1	9.1
	商工サービス業	226	6.6	18.6	40.3	65.5	33.6	0.9▲
	常 雇 被 用 者	1,086	5.7	16.5	43.9	66.1	30.4▲	3.5
	公 務 員	107	5.6	14.0	43.9	63.6	29.9	6.5
	民間企業被用者	979	5.7	16.8	43.9	66.4	30.4▲	3.2▲
	小企業被用者	192	7.8	14.1	45.8	67.7	29.2▲	3.1
	中企業被用者	491	5.3	18.7	43.4	67.4	28.7▲	3.9
	大企業被用者	273	4.8	15.8	44.7	65.2	33.3	1.5▲
	非 正 規 社 員	166	4.8	14.5	47.6	66.9	27.7▲	5.4
	無 職	447	4.0	4.9▲	23.3▲	32.2▲	61.3	6.5
女	性	2,736	4.5	13.7	41.3	59.5	35.5	5.0
本人職業	自 営 者	190	6.3	14.7	41.1	62.1	32.6	5.3
	農 林 漁 業	25	0.0	24.0	24.0	48.0	36.0	16.0
	商工サービス業	141	7.1	14.9	39.7	61.7	34.8	3.5
	常 雇 被 用 者	672	5.2	15.8	47.9	68.9	27.8▲	3.3▲
	公 務 員	85	7.1	8.2	52.9	68.2	31.8	0.0▲
	民間企業被用者	587	4.9	16.9	47.2	69.0	27.3▲	3.7
	小企業被用者	139	5.0	18.0	48.9	71.9	23.0▲	5.0
	中企業被用者	282	3.5	16.7	48.2	68.4	29.8▲	1.8▲
	大企業被用者	135	5.9	14.8	48.9	69.6	25.2▲	5.2
	非 正 規 社 員	765	4.8	15.3	49.0	69.2	26.3▲	4.6
	無 職	1,027	3.6	10.2▲	30.7▲	44.5▲	49.2	6.3

8. 入院費用をまかなう手段

2～3ヵ月の入院が必要になる場合を想定したときに、公的な医療保障や企業からの保障、私的な準備などのなかで、どのような手段によって治療費や生活費をまかなおうと考えているかを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身がケガや病気で2～3ヵ月程度の入院が必要になった場合に、どのような手段で治療費や生活費などをまかなっていこうとお考えですか。これから準備しようとお考えのものも含めて、この中からいくつでもお答えください。

- (ア) 公的医療保険（国民健康保険や健康保険など）
- (イ) 企業の見舞金や休業補償
- (ウ) 民間の生命保険会社や郵便局、J A（農協）などで取り扱っている生命保険の医療・疾病関係の特約や医療保険（ガン保険など、特定の病気を対象とするものを含む）（銀行・証券等の窓口で加入した商品も含む）
..... 以下「生命保険」
- (エ) 損害保険
- (オ) 預貯金
- (カ) 株式・債券などの有価証券 以下「有価証券」
- (キ) 家族の収入
- (ク) その他
わからない

その結果、「公的医療保険」が75.2%と最も高く、以下「生命保険」（66.9%）、「預貯金」（56.3%）、「家族の収入」（15.5%）、「損害保険」（15.3%）の順となっている。

前回と比較すると、「有価証券」が2.0ポイント増加し、「家族の収入」が2.1ポイント減少している。（図表Ⅱ－65）

<図表Ⅱ-65> 入院費用をまかなう手段

（複数回答，単位：％）

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
2025 （令和7）年	4,837	75.2	13.2	66.9	15.3	56.3	5.8	15.5	0.8	1.8
2022 （令和4）年	4,844	74.6	12.9	66.9	16.3	55.8	3.8	17.6	0.9	1.9

*集計対象は18～79歳

【参考】時系列でみると、「企業の見舞金や休業補償」は2013（平成25）年以降、増加傾向が続いている。

(複数回答, 単位: %)

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
2025 (令和7) 年	3,684	74.8	16.8	68.7	15.9	54.2	5.9	17.3	0.6	1.7
2022 (令和4) 年	3,851	74.4	15.9	68.8	16.8	53.2	3.8	19.1	0.6	1.9
2019 (令和元) 年	4,014	71.8	14.3	69.8	15.3	50.2	2.3	18.2	0.6	2.4
2016 (平成28) 年	4,056	73.4	12.6	69.5	16.0	52.0	2.8	18.9	0.8	2.3
2013 (平成25) 年	4,043	72.9	10.7	67.4	14.8	49.7	2.4	18.9	1.3	1.5
2010 (平成22) 年	4,076	73.5	10.9	64.6	14.4	49.7	2.5	20.0	1.2	2.1
2007 (平成19) 年	4,059	73.8	11.4	66.7	18.0	48.9	2.6	19.4	0.8	2.3
2004 (平成16) 年	4,202	74.9	9.8	65.3	18.1	51.3	2.2	24.6	1.1	2.9
2001 (平成13) 年	4,197	75.1	14.2	64.9	21.6	50.9	2.2	22.8	0.8	2.0
1998 (平成10) 年	4,217	74.0	12.4	67.0	21.1	52.7	2.0	26.7	0.6	2.6

*2019（令和元）年以前と時系列比較するために、対象年齢を18～69歳として再集計した

性別にみると、男性では「企業の見舞金や休業補償」、「損害保険」、「有価証券」が、女性では「生命保険」、「預貯金」、「家族の収入」が高くなっている。

性・年齢別にみると、「企業の見舞金や休業補償」は男性20～40歳代、女性20～50歳代で、「生命保険」は男性50～60歳代、女性40～60歳代で、それぞれ高くなっている。（図表Ⅱ-66）

<図表Ⅱ-66> 入院費用をまかなう手段〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	公的医療保険	企業の見舞金や休業補償	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
男 性	2,101	74.4	17.0	63.1	18.5	54.2	7.9	9.5	0.8	2.1
20歳代	181	72.4	30.9	45.3▲	18.8	48.1	7.2	23.8	0.0	4.4
30歳代	225	76.4	32.4	59.6	12.4▲	56.0	9.8	10.2	0.4	1.3
40歳代	363	68.0▲	26.7	67.5	20.4	52.3	9.9	8.8	0.8	2.5
50歳代	406	72.4	19.2	70.4	20.9	48.3▲	5.4▲	7.4	0.5	1.0
60歳代	404	80.2+	9.7▲	67.8	21.5	59.7	10.9	6.4▲	1.0	1.2
70歳代	485	76.1	2.5▲	60.2	15.5	59.6	5.8▲	5.6▲	1.4	3.1
女 性	2,736	75.8	10.3	69.8	12.9	57.9	4.2	20.2	0.8	1.6
20歳代	165	72.7	20.0	44.8▲	9.1	46.1▲	2.4	35.8	0.0	3.0
30歳代	282	76.6	19.9	70.2	12.8	55.3	3.9	24.8	0.7	1.8
40歳代	438	74.4	15.3	75.3	9.4▲	53.7▲	4.8	23.5	0.7	1.4
50歳代	576	74.7	13.9	78.3	14.6	54.5	3.6	20.5	0.2	1.0
60歳代	579	78.2	5.9▲	75.3	16.6	62.2	3.8	18.0	0.9	1.6
70歳代	668	76.3	1.5▲	61.5▲	12.0	65.4	5.2	12.7▲	1.5	1.6

性・本人職業別にみると、「生命保険」は男性では農林漁業、小企業被用者、大企業被用者で、女性では商工サービス業、公務員、大企業被用者で高くなっている。

性・本人年収別にみると、男女とも概ね高年収層ほど「企業の見舞金や休業補償」、「生命保険」が高くなっている。(図表Ⅱ-67)

<図表 Ⅱ-67> 入院費用をまかなう手段〔性・本人職業別、性・本人年収別〕

(複数回答, 単位: %)											
		N	公的医療保険	や企業の見舞金 休業の補償金	生命保険	損害保険	預貯金	有価証券	家族の収入	その他	わからない
男性		2,101	74.4	17.0	63.1	18.5	54.2	7.9	9.5	0.8	2.1
本人職業	自営者	310	74.2	6.8▲	68.7	21.6	57.1	8.4	7.1	1.0	0.6▲
	農林漁業	44	68.2	6.8	81.8	11.4	50.0	4.5	11.4	0.0	0.0
	商工サービス業	226	75.2	7.5▲	68.6	25.2	58.0	8.0	6.6	1.3	0.9
	常雇被用者	1,086	73.9	28.4	68.9	19.5	53.1	8.6	8.2▲	0.2▲	1.3▲
	公務員	107	75.7	30.8	68.2	19.6	61.7	9.3	5.6	0.0	1.9
	民間企業被用者	979	73.7	28.1	68.9	19.5	52.2	8.5	8.5	0.2▲	1.2▲
	小企業被用者	192	72.9	18.2	71.4	22.9	50.5	7.3	10.4	0.5	1.0
	中企業被用者	491	72.9	24.6	65.6	18.5	51.3	7.5	9.0	0.2	1.4
	大企業被用者	273	75.8	41.0	73.6	19.4	52.4	11.4	5.9▲	0.0	0.7
	非正規社員	166	72.9	7.2▲	56.6	16.3	57.8	6.6	13.3	0.0	2.4
無職	447	76.5	0.9▲	52.1▲	14.1▲	57.9	7.2	6.7▲	2.5	4.5	
本人年収	収入はない	93	68.8	5.4▲	30.1▲	8.6▲	32.3▲	3.2	29.0	5.4	10.8
	300万円未満	631	76.1	7.8▲	53.4▲	17.7	52.1	4.9▲	10.9	0.8	2.5
	300～500万円未満	472	72.5	20.3	68.9	20.1	59.1	7.2	10.2	0.4	0.8▲
	500～700万円未満	335	74.3	27.8	74.6	22.1	55.8	10.4	7.8	0.3	0.6▲
	700～1,000万円未満	187	72.7	28.9	75.4	17.6	54.5	10.2	5.3▲	0.5	1.1
	1,000万円以上	89	76.4	30.3	69.7	21.3	65.2	21.3	4.5	1.1	0.0
女性		2,736	75.8	10.3	69.8	12.9	57.9	4.2	20.2	0.8	1.6
本人職業	自営者	190	81.6	2.6▲	79.5	17.4	56.8	6.8	22.6	1.1	1.1
	農林漁業	25	68.0	0.0	84.0	20.0	56.0	0.0	32.0	0.0	4.0
	商工サービス業	141	83.0	2.8▲	77.3	17.7	58.9	7.8	20.6	0.0	0.7
	常雇被用者	672	76.9	27.8	76.0	14.7	57.6	4.5	16.8▲	0.6	1.0
	公務員	85	84.7	35.3	82.4	12.9	63.5	5.9	14.1	0.0	0.0
	民間企業被用者	587	75.8	26.7	75.1	15.0	56.7	4.3	17.2▲	0.7	1.2
	小企業被用者	139	73.4	17.3	71.9	14.4	51.8	2.9	17.3	2.2	1.4
	中企業被用者	282	76.2	23.8	74.5	13.5	59.9	3.2	13.8▲	0.4	1.1
	大企業被用者	135	77.0	44.4	79.3	18.5	54.1	8.1	24.4	0.0	0.7
	非正規社員	765	76.1	8.2▲	71.4	12.5	53.1▲	2.5▲	23.0	0.4	1.4
無職	1,027	74.3	1.5▲	64.9▲	11.4	63.5	5.0	18.6	1.2	1.9	
本人年収	収入はない	400	71.8▲	3.5▲	67.8	10.3	57.0	3.0	27.3	0.5	3.0
	100万円未満	615	74.8	3.7▲	62.6▲	11.9	56.9	4.1	21.0	1.1	1.5
	100～300万円未満	923	76.8	9.8	72.2	14.0	57.4	3.8	22.0	0.9	1.6
	300～500万円未満	299	78.9	21.4	75.3	16.1	63.9	7.4	16.4	0.3	0.3
	500万円以上	126	75.4	35.7	79.4	17.5	60.3	9.5	10.3▲	1.6	0.0